

第一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

要移轉棟數に對する百分比	計		土藏造	鐵筋コンクリート造	鐵骨造	煉瓦造	同	石造
	二階建	平家建						
二四・八〇	四・六	—	—	—	—	—	—	—
〇・三〇	五	—	—	—	—	—	—	—
四九・九二	八・六	—	—	—	—	—	—	—
〇・四一	七	—	—	—	—	—	—	—
四・三七	壹	—	—	—	—	—	—	—
一三・三九	二・〇	—	—	—	—	—	—	—
六・七五	二・六	—	—	—	—	—	—	—
〇・〇六	—	—	—	—	—	—	—	—
一〇〇・〇〇	一・七八	—	—	—	—	—	—	—

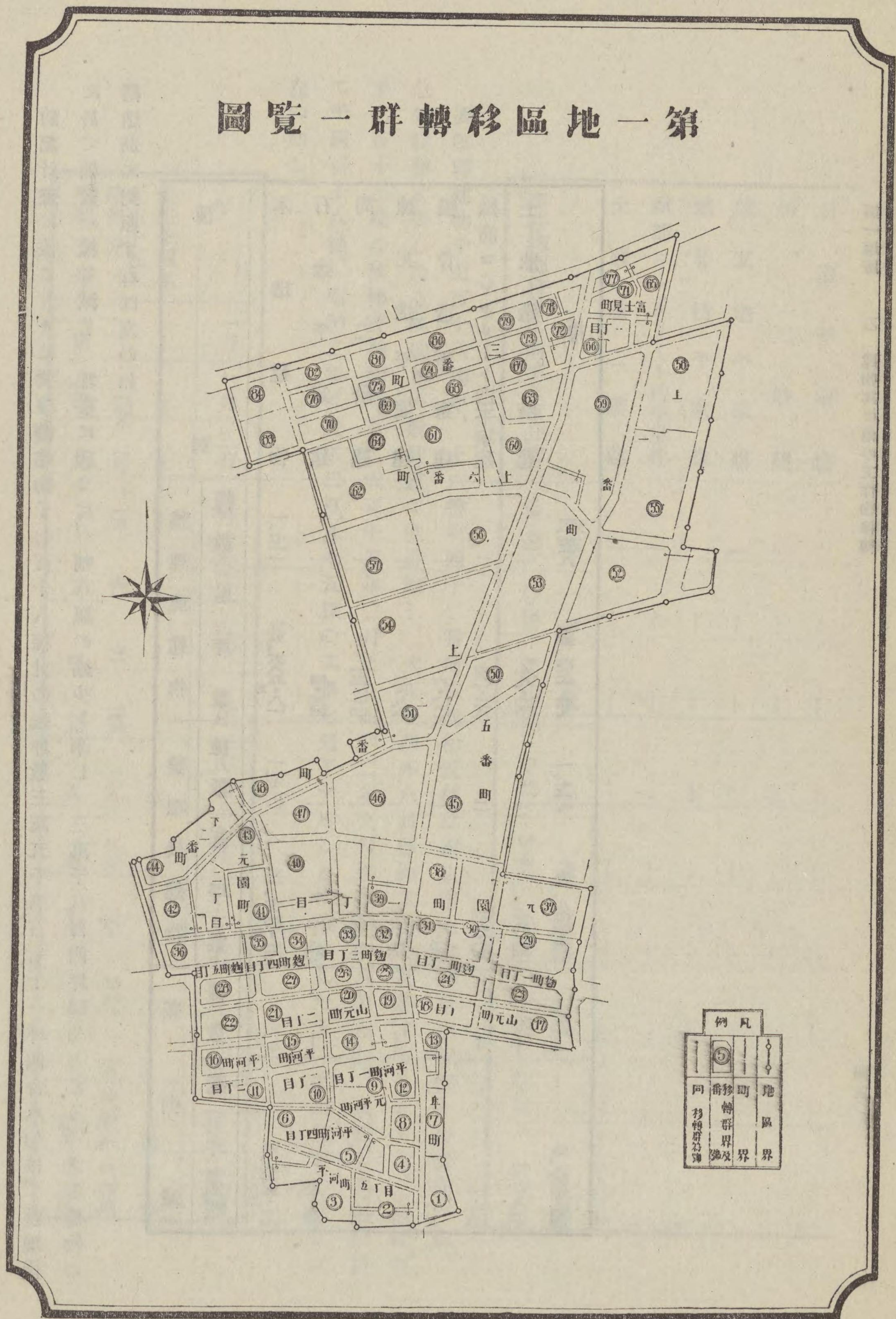
要移轉建物千七百十八棟中、上六番町四十二番所在建物五棟は東京市上六尋常小學校々舎新築の爲、急速移轉を要したるに依り一般計畫より分離し、大正十四年八月移轉工事を実施することとし、爾餘の千七百十三棟の移轉實施期間を、大正十五年二月より昭和二年九月迄の一年八月とし、大正十五年に於て千四百十八棟、昭和二年に於て二百九十五棟の工事を完了することに豫定したり、之を月別に示せば左の如し。

年	月		大正十四年	大正十五年	昭和元年	昭和二年
	一月	二月				
一月	—	—	—	—	—	—
二月	—	—	—	—	—	—
三月	—	—	—	—	—	—
四月	—	—	—	—	—	—
五月	—	—	—	—	—	—
六月	—	—	—	—	—	—
七月	—	—	—	—	—	—
八月	—	—	—	—	—	—
九月	—	—	—	—	—	—
十月	—	—	—	—	—	—
十一月	—	—	—	—	—	—
十二月	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
累計	—	—	—	—	—	—

前記計畫に依るときは要移轉建物千七百十八棟此の延坪數三萬五千六百七十一坪四合八勺は、整理後に於て棟數一棟を減じ、坪數に於ては一割八厘の縮少を來し、三萬千八百四坪四勺となる、之を建物の構造別に對照すれば左の如し。

種別	整理前建物		整理後建物		差引	
	棟數	延坪數	棟數	延坪數	棟數	延坪數
大正十四年	—	—	—	—	—	—
大正十五年	—	—	—	—	—	—
昭和元年	—	—	—	—	—	—
昭和二年	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—
累計	—	—	—	—	—	—

第一地區轉移群一覽圖



第三章 移轉手續

第一節 移轉命令

大正十四年十月二十六日第一次移轉命令として、一番町の一部第五十二移轉群建物十八棟の内六棟に對し、移轉命令四通を發し、爾來引續き發令に努め、大正十五年七月三十一日富士見町一丁目の一部第四十二、第七十一、第七十七移轉群外三箇移轉群の發令を最後とし、要移轉建物千七百十八棟の内、協



第三章 移轉手續

第一節 移轉命令

大正十四年十月二十六日第一次移轉命令として、一番町の一部第五十二移轉群建物十八棟の内六棟に對し、移轉命令四通を發し、爾來引續き發令に努め、大正十五年七月三十一日富士見町一丁目の一部第四十一、第七十一、第七十七移轉群外三箇移轉群の發令を最後とし、要移轉建物千七百十八棟の内、協議並直轄移轉に依る二十八棟を除きたる千六百九十棟及工作物に對し、移轉命令千四百九十二通、同通知千二百六十通を發し、茲に全部の發令を終へたり、之を月別に示せば左の如し。

年	月	命令棟數	命令通數	命令通知通數
大正十四年	十月	六	四	一
	十一月	三七	四〇	三三
	十二月	一五	一九	三三
	計	五八	六三	六六
	一月	三	二四	一九
	二月	二五	一〇二	九
大正十五年	三月	一〇	九四	七
	四月	三二	一六〇	二七〇
	五月	三二	三〇	二六
	計	六二	二〇〇	二七〇
	昭和元年	五月	三二	三〇

第一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

合 計	計		合 計	合 計
	七 月	六 月		
一、六九〇	一、六三三	四九五	二〇八	二二〇
一、四九三	一、四九〇	四〇九	一、四三三	一、四三三
一、二〇〇	一、三三四	三三七	一、二五三	一、二五三

備考 本表中には移轉命令發令後取消を爲したるものを含まず。

第二節 協議並直轄移轉

第一 協議移轉

本地區に於て協議移轉を爲したるもの建物二十七棟、工作物五十一件あり、内建物七棟、工作物四件は官公署の所有に係り、事業實施の便宜上協議移轉を爲したるもの、其の他の建物二十棟及工作物四十七件は民有にして、内建物五棟は東京市上六尋常小學校々舎新築關係に依り急速移轉を要したるもの、其の他の建物十五棟及工作物四十七件は移轉促進の爲特に急施を要したるものなり。

第二 直轄移轉

本地區に於て直轄移轉を爲したるもの民有建物一棟あり、右は大正十五年二月六日移轉命令を發したる處、翌三月に至り該建物の所有者は、其の建物を其の所在地と共に鐵道省に賣却したりとの理由の下に、移轉命令書並之が損害補償金決定通知書を一括返送し來れり。依て鐵道省に就き之が事實を調査したるに、土地は更地として買收したるものにして、地上物件は賣買契約に包含せざること判明したるを以て、更に受命者に對し移轉實施方を交渉したるに、同年五月十三日文書を以て建物の所有權を拋棄し、整理施行者に於て適宜處置ありたき旨届出ありたるに依り、之を除却せり。

第四章 損害補償

第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、乃ち大正十四年十月建物及工作物の新築費並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定を爲し、翌十一月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は昭和二年七月迄に終

る處、翌三月に至り該建物の所有者は、其の建物を其の所在地と共に鐵道省に賣却したりとの理由の下に、移轉命令書並之が損害補償金決定通知書を一括返送し來れり。依て鐵道省に就き之が事實を調査したるに、土地は更地として買収したるものにして、地上物件は賣買契約に包含せざること判明したるを以て、更に受命者に對し移轉實施方を交渉したるに、同年五月十三日文書を以て建物の所有權を拋棄し、整理施行者に於て適宜處置ありたき旨届出ありたるに依り、之を除却せり。

第四章 損害補償

第一節 補償金の決定

移轉命令の發令に次で移轉損害補償金の算定に著手せり、乃ち大正十四年十月建物及工作物の新築費並動産の種類、數量及營業休止に因る損害等の現地調査に著手、其の調査に基き移轉損害補償金の算定を爲し、翌十一月以降逐次補償審査會の審議決定を経たり、而して前記現地調査は昭和二年七月迄に終了し、又補償審査會に於ける補償金の決定も回を重ねること四十五回（變更案の決定を含む）にして、同年八月一先終了したるが、其の後に至り尙既決補償金の變更を要するものあり、之が審議決定を爲すこと十三回に及び、同四年十月全部の決定を了せり、尙補償審査會の決定を要せざるものに付ては、調査算定すると共に關係者と協定する等夫々處理を了したり。

補償審査會に於て決定したる補償金及其の他の移轉料總額は、左表の如く百四十三萬千八百九十九圓三十六錢にして、内國負擔額三十八萬千七百六圓七十錢、市負擔額百四萬九千三百八十二圓六十六錢なり。

建物棟數	延坪數	補償金	内訳	
			區分	金額
一、七八	五、六七・四八 ^坪	一、四三、〇九・三六	建物移轉料	八五、四三・八一 ^円
			工作物移轉料	二七、一五・九
			造作移轉料	一七、〇四・二〇
			動産移轉料	二二、五〇・七四
			休業補償	一三、五四・三三
			雜費	九七、三三・四九
			計	一、四三、〇九・三六
				二二、九三 ^円
				六・〇九
				〇・四八
				三・四六
				三・四四
				二・七三
				四〇・三三

第一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

因に前表建物及工作物移轉料算定の基準となりたる新築費を示せば左の如し。

種別	棟數	延坪數	延一坪棟數當	新築費	坪當單價
木造建物	一七二	三五、五五・八一 ^坪	二〇・八〇 ^坪	二、八四六、三七・四一 ^円	七九・九八 ^円
石造平家建	一	四・三三	四・三三	九六五・五九	二三・〇〇
同二階建	一	一三・一〇	一三・一〇	三、一七〇・二〇	二四二・〇〇
煉瓦造平家建	一	二・九六	二・九六	三四六・三三	一一七・〇〇
鐵骨造平家建	一	六・〇〇	六・〇〇	五四〇・〇〇	八四・〇〇
鐵筋コンクリート造平家建	二	四〇・二八	二〇・二四	一三、一八九・三六	三二七・四四
土藏造二階建	一	一九・〇〇	一九・〇〇	五、三〇〇・〇〇	二七九・四七
工作物	一	一	一	五五二、一四九・六〇	一五・四八
計	一七八	三五、七〇・四八	二〇・六六	三、四二二、九六三・四八	一九九・九三

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

前掲補償金及移轉料の總額を更に種別毎に分類して示せば左の如し。

一 補償審査會に於て決定せる補償金

建物棟數	延坪數	補償金	内		額	坪當
			區分	金		
					八七、四二二・八七 ^円	二四・三三 ^円

工					
計	物				
		一、七八	三、五七・四八	二〇七	五五二、一四九・六〇
					一五・四八
					九五・九三

備考 工作物の坪當單價は其の新築費を建物總延坪數にて除したるものなり。

前掲補償金及移轉料の總額を更に種別毎に分類して示せば左の如し。

一 補償審査會に於て決定せる補償金

棟數	建物	延坪數	補償金	區分		額	坪當
				内	金		
一、六六		三、一六三・三三	一、三六六、六一・八五	建物移轉料	八七、四二・八九	二四・二三	
				工作物移轉料	二〇四・九八・六九	六・〇〇	
				造作移轉料	一六、六三・四四	〇・四九	
				動産移轉料	二〇、九七・七五	三・五四	
				休業補償	二二、三〇・一〇	三・五五	
				雜費	九五、二九・〇〇	二・七九	
				計	一、三六六、六一・八五	四〇・五九	

第一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

第一地區 乙 建物其他の工作物移轉

二 協議移轉に依る移轉料

五〇

棟 數	建 物	延 坪 數	移 轉 料	區 分 金 額 坪 當	
				內	譯
二七		六四二・四 ^坪	二、三三〇・三五 ^円	七、八八・七 ^円	二二・七 ^円
			建物移轉料	九、五二・九	一四・九
			工作物移轉料	三〇〇・七六	〇・五
			造作移轉料	一、七五・二六	二・七
			動産移轉料	五四・三	〇・八
			休業補償	一、一六・九五	一・八〇
			雜費		
			計	三、三三〇・三三	三三・〇

三 直轄移轉工事費並其の補償金

建 物	區 分 棟 數	延 坪 數	補 償 金	工 事 費
一棟		七・〇〇 ^坪	一 ^円	一、二五 ^円

第一地區 乙 建物其他の工作物移轉

棟數	建物	延坪數	移轉料	内	
				區分	金額
三		八六・七 ^坪	二,一〇八・二五 ^円	建物移轉料	一七,九六・九五 ^円
				工作物移轉料	二,七四・一一
				雜費	五七・〇九
				計	二,二〇八・四五
					二〇・九 ^円
					三・一七
					二四・六九

四 不許可建物の移轉料

建物	區分	棟數	延坪數	補償金	工事費
一棟			七・〇〇 ^坪	一 ^円	一五・〇〇 ^円

三 直轄移轉工事費並其の補償金

計	二,二三〇・三三	三三・〇〇
---	----------	-------

五 豫告を受けざる占有者の移轉料

件 數	移 轉 料	區 分		譯 額
		内	金	
EO	一、八五七・二	工 作 物 移 轉 料	料	円
		造 作 移 轉 料	料	
		動 産 移 轉 料	料	七九・七五
		休 業 補 償	費	六六・九一
		雜 費	費	四三〇・四五
		計		一、八五七・二

第二節 補償金の決定通知と其の交付

移轉損害補償金の決定通知は大正十四年十一月より開始し、爾來決定の都度之が通知を爲し、昭和二年八月を以て一先終了せるも、其の後に至り補償金の一部に變更を來したるものあり、之が變更通知は昭和四年十月に及びたり。

然るに前記通知書中、住所不明の爲返送せられたるもの多數あり、右は何れも住所異動に因るものなるを以て、之等に對しては極力其の移轉先を調査の上判明したる者には夫々通知を爲し、全く所在不明なるものに付ては、昭和三年十月十三日本市公報に掲載し公示送達をなせり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、大正十四年八月之が交

付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額百四十三萬九百二十九圓二十九錢にして、内國負擔額三十八萬千七百六圓七十錢、市負擔額百四萬九千二百二十二圓五十九錢なり。

而して昭和三年六月即ち移轉工事完了迄に、要移轉建物の内抵當權の設定ありたるもの七百八棟此の件數六百二十九件ありしが、何れも抵當權者の同意を得て支拂を了したり。

昭和四年十月に及びたり。

然るに前記通知書中、住所不明の爲返送せられたるもの多數あり、右は何れも住所異動に因るものなるを以て、之等に對しては極力其の移轉先を調査の上判明したる者には夫々通知を爲し、全く所在不明なるものに付ては、昭和三年十月十三日日本市公報に掲載し公示送達をなせり。

補償審査會に於て決定したる補償金及協議其の他の方法に依りたる移轉料は、大正十四年八月之が交

付を開始し、昭和六年三月末日迄に交付せし金額百四十三萬九百二十九圓二十九錢にして、内國負擔額三十八萬千七百六圓七十錢、市負擔額百四萬九千二百二十二圓五十九錢なり。

而して昭和三年六月即ち移轉工事完了迄に、要移轉建物の内抵當權の設定ありたるもの七百八棟此の件數六百二十九件ありしが、何れも抵當權者の同意を得て支拂を了したり。

第五章 移轉實施

第一節 實施狀況

本地區に於ける移轉工事は別表に示すが如く、東京市上六尋常小學校々舎新築の爲、急速移轉を要したる上六番町四十二番所在建物五棟は大正十四年八月迄に、其の他の建物千七百十三棟は大正十五年二月より昭和二年九月迄に完了する豫定なりしが之が實施に至りては前記特別取扱を爲したる建物五棟の豫定時期迄に移轉を完了したる外其の他の移轉は豫定の工程を見る能はず、即ち最終工期たる昭和二年九月迄に工事完了の豫定なりし千七百十三棟の内、千五百二十一棟は豫定期間中に、殘餘の百九十二棟は翌三年六月迄に、尙建物以外の工作物も同時期迄に移轉を了し、結局豫定に遅ること九月にして全部の完了を見たり、更に右特別扱に係る五棟を除き之を年別に示せば左の如し。

大正十五年 昭和元年に於ける移轉

大正十五年二月より十二月に至る工事豫定棟數千四百十八棟に對し、工事完了せるもの九百三十三棟

第一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

此の進捗歩合六割五分八厘にして、残餘の四百八十五棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。
昭和二年に於ける移轉

昭和二年一月より九月に至る既定の工事豫定棟數二百九十五棟、之に前年より繰越しに係る四百八十五棟を加へたる七百八十棟は、此の期に於て工事施行を要する棟數なり、内工事完了したるもの五百八十八棟此の進捗歩合七割五分四厘にして、残餘の建物百九十二棟の内、百十棟は同年十二月迄に移轉を了し、八十二棟は工事未了の儘翌年に繰越したり。

昭和三年に於ける移轉

前年より繰越したる八十二棟に對しては、極力指導督勵したるも、其の最終移轉は六月に至りたり。
今前掲移轉を了したる建物を、更に移轉手續別に分類するときは、命令に依りたるもの千六百九十棟（代執行を爲したるもの一棟を含む）協議に依りたるもの二十七棟、直轄工事に依りたるもの一棟なり。

移轉實施月別棟數表（本表棟數は協議移轉及直轄移轉のものを含む）

年	月	移轉命令		補償金決定		工事完了豫定		工事完了	
		月別	累計	月別	累計	月別	累計	月別	累計
大正十四年	七月	五	五	五	五	五	五	五	五
	八月	一	六	一	六	一	六	一	六
	九月	一	七	一	七	一	七	一	七
	十月	六	一三	六	一三	六	一三	六	一三
	十一月	七	二〇	七	二〇	七	二〇	七	二〇
		二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月
五	三	二	一	四	三
三二	二〇	一五	一〇	六	三
六〇	三九	二九	一九	一六	一三
九三	五八	四三	三三	二五	一八
一三〇	八七	六六	五〇	三九	三〇
一八〇	一二〇	九〇	六六	五〇	三九
二三〇	一五〇	一二〇	九〇	六六	五〇
二八〇	一八〇	一四〇	一〇〇	七五	六〇
三三〇	二一〇	一七〇	一二〇	九〇	七五
三八〇	二四〇	二〇〇	一五〇	一二〇	九〇
四三〇	二七〇	二三〇	一八〇	一五〇	一二〇
四八〇	三〇〇	二六〇	二一〇	一八〇	一二〇
五三〇	三三〇	二九〇	二四〇	二一〇	一二〇
五八〇	三六〇	三二〇	二七〇	二四〇	一二〇
六三〇	三九〇	三五〇	三〇〇	二七〇	一二〇
六八〇	四二〇	三八〇	三三〇	三〇〇	一二〇
七三〇	四五〇	四一〇	三六〇	三三〇	一二〇
七八〇	四八〇	四四〇	三九〇	三六〇	一二〇
八三〇	五一〇	四七〇	四二〇	三九〇	一二〇
八八〇	五四〇	五〇〇	四五〇	四二〇	一二〇
九三〇	五八〇	五三〇	四八〇	四五〇	一二〇
九八〇	六一〇	五六〇	五一〇	四八〇	一二〇
一〇三〇	六四〇	五九〇	五四〇	五一〇	一二〇
一〇八〇	六七〇	六二〇	五八〇	五四〇	一二〇
一一三〇	七〇〇	六五〇	六一〇	五八〇	一二〇
一一八〇	七三〇	六八〇	六四〇	六一〇	一二〇
一二三〇	七六〇	七一〇	六七〇	六四〇	一二〇
一二八〇	七九〇	七〇〇	七〇〇	六七〇	一二〇
一三三〇	八二〇	七三〇	七三〇	七〇〇	一二〇
一三八〇	八五〇	七六〇	七六〇	七三〇	一二〇
一四三〇	八八〇	七九〇	七九〇	七六〇	一二〇
一四八〇	九一〇	八二〇	八二〇	七九〇	一二〇
一五三〇	九四〇	八五〇	八五〇	八二〇	一二〇
一五八〇	九七〇	八八〇	八八〇	八五〇	一二〇
一六三〇	一〇〇〇	九一〇	九一〇	八八〇	一二〇
一六八〇	一〇三〇	九四〇	九四〇	九一〇	一二〇
一七三〇	一〇六〇	九七〇	九七〇	九四〇	一二〇
一七八〇	一〇九〇	一〇〇〇	一〇〇〇	九七〇	一二〇
一八三〇	一一二〇	一〇三〇	一〇三〇	一〇〇〇	一二〇
一八八〇	一一五〇	一〇六〇	一〇六〇	一〇三〇	一二〇
一九三〇	一一八〇	一〇九〇	一〇九〇	一〇六〇	一二〇
一九八〇	一二一〇	一一二〇	一一二〇	一〇九〇	一二〇
二〇三〇	一二四〇	一一五〇	一一五〇	一一二〇	一二〇
二〇八〇	一二七〇	一一八〇	一一八〇	一一五〇	一二〇
二一三〇	一三〇〇	一二一〇	一二一〇	一一八〇	一二〇
二一八〇	一三三〇	一二四〇	一二四〇	一二一〇	一二〇
二二三〇	一三六〇	一二七〇	一二七〇	一二四〇	一二〇
二二八〇	一三九〇	一二〇〇	一二〇〇	一二七〇	一二〇
二三三〇	一四二〇	一二三〇	一二三〇	一二〇〇	一二〇
二三八〇	一四五〇	一二六〇	一二六〇	一二三〇	一二〇
二四三〇	一四八〇	一二九〇	一二九〇	一二六〇	一二〇
二四八〇	一五一〇	一三二〇	一三二〇	一二九〇	一二〇
二五三〇	一五四〇	一三五〇	一三五〇	一二六〇	一二〇
二五八〇	一五七〇	一三八〇	一三八〇	一二九〇	一二〇
二六三〇	一六〇〇	一四一〇	一四一〇	一二六〇	一二〇
二六八〇	一六三〇	一四四〇	一四四〇	一二九〇	一二〇
二七三〇	一六六〇	一四七〇	一四七〇	一二六〇	一二〇
二七八〇	一六九〇	一五〇〇	一五〇〇	一二九〇	一二〇
二八三〇	一七二〇	一五三〇	一五三〇	一二六〇	一二〇
二八八〇	一七五〇	一五六〇	一五六〇	一二九〇	一二〇
二九三〇	一七八〇	一五九〇	一五九〇	一二六〇	一二〇
二九八〇	一八一〇	一六二〇	一六二〇	一二九〇	一二〇
三〇三〇	一八四〇	一六五〇	一六五〇	一二六〇	一二〇
三〇八〇	一八七〇	一六八〇	一六八〇	一二九〇	一二〇
三一三〇	一九〇〇	一七一〇	一七一〇	一二六〇	一二〇
三一八〇	一九三〇	一七四〇	一七四〇	一二九〇	一二〇
三二三〇	一九六〇	一七七〇	一七七〇	一二六〇	一二〇
三二八〇	一九九〇	一八〇〇	一八〇〇	一二九〇	一二〇
三三三〇	二〇二〇	一八三〇	一八三〇	一二六〇	一二〇
三三八〇	二〇五〇	一八六〇	一八六〇	一二九〇	一二〇
三四三〇	二〇八〇	一八九〇	一八九〇	一二六〇	一二〇
三四八〇	二一一〇	一九二〇	一九二〇	一二九〇	一二〇
三五三〇	二一四〇	一九五〇	一九五〇	一二六〇	一二〇
三五八〇	二一七〇	一九八〇	一九八〇	一二九〇	一二〇
三六三〇	二二〇〇	二〇一〇	二〇一〇	一二六〇	一二〇
三六八〇	二二三〇	二〇四〇	二〇四〇	一二九〇	一二〇
三七三〇	二二六〇	二〇七〇	二〇七〇	一二六〇	一二〇
三七八〇	二二九〇	二一〇〇	二一〇〇	一二九〇	一二〇
三八三〇	二三二〇	二一三〇	二一三〇	一二六〇	一二〇
三三八〇	二三五〇	二一六〇	二一六〇	一二九〇	一二〇
三九三〇	二三八〇	二一九〇	二一九〇	一二六〇	一二〇
三九八〇	二四一〇	二二二〇	二二二〇	一二九〇	一二〇
四〇三〇	二四四〇	二二五〇	二二五〇	一二六〇	一二〇
四〇八〇	二四七〇	二二八〇	二二八〇	一二九〇	一二〇
四一三〇	二五〇〇	二三一〇	二三一〇	一二六〇	一二〇
四一八〇	二五三〇	二三四〇	二三四〇	一二九〇	一二〇
四二三〇	二五六〇	二三七〇	二三七〇	一二六〇	一二〇
四二八〇	二五九〇	二四〇〇	二四〇〇	一二九〇	一二〇
四三三〇	二六二〇	二四三〇	二四三〇	一二六〇	一二〇
四三八〇	二六五〇	二四六〇	二四六〇	一二九〇	一二〇
四四三〇	二六八〇	二四九〇	二四九〇	一二六〇	一二〇
四四八〇	二七一〇	二五二〇	二五二〇	一二九〇	一二〇
四五三〇	二七四〇	二五五〇	二五五〇	一二六〇	一二〇
四五八〇	二七七〇	二五八〇	二五八〇	一二九〇	一二〇
四六三〇	二八〇〇	二六一〇	二六一〇	一二六〇	一二〇
四六八〇	二八三〇	二六四〇	二六四〇	一二九〇	一二〇
四七三〇	二八六〇	二六七〇	二六七〇	一二六〇	一二〇
四七八〇	二八九〇	二七〇〇	二七〇〇	一二九〇	一二〇
四八三〇	二九二〇	二七三〇	二七三〇	一二六〇	一二〇
四八八〇	二九五〇	二七六〇	二七六〇	一二九〇	一二〇
四九三〇	二九八〇	二七九〇	二七九〇	一二六〇	一二〇
四九八〇	三〇一〇	二八二〇	二八二〇	一二九〇	一二〇
五〇三〇	三〇四〇	二八五〇	二八五〇	一二六〇	一二〇
五〇八〇	三〇七〇	二八八〇	二八八〇	一二九〇	一二〇
五一三〇	三一〇〇	二九一〇	二九一〇	一二六〇	一二〇
五一八〇	三一三〇	二九四〇	二九四〇	一二九〇	一二〇
五二三〇	三一六〇	二九七〇	二九七〇	一二六〇	一二〇
五二八〇	三一九〇	三〇〇〇	三〇〇〇	一二九〇	一二〇
五三三〇	三二二〇	三〇三〇	三〇三〇	一二六〇	一二〇
五三八〇	三二五〇	三〇六〇	三〇六〇	一二九〇	一二〇
五四三〇	三二八〇	三〇九〇	三〇九〇	一二六〇	一二〇
五四八〇	三三一〇	三一二〇	三一二〇	一二九〇	一二〇
五五三〇	三三四〇	三一五〇	三一五〇	一二六〇	一二〇
五五八〇	三三七〇	三一八〇	三一八〇	一二九〇	一二〇
五六三〇	三四〇〇	三二一〇	三二一〇	一二六〇	一二〇
五六八〇	三四三〇	三二四〇	三二四〇	一二九〇	一二〇
五六三〇	三四六〇	三二七〇	三二七〇	一二六〇	一二〇
五六八〇	三四九〇	三三〇〇	三三〇〇	一二九〇	一二〇
五七三〇	三五二〇	三三三〇	三三三〇	一二六〇	一二〇
五七八〇	三五五〇	三三六〇	三三六〇	一二九〇	一二〇
五八三〇	三五八〇	三三九〇	三三九〇	一二六〇	一二〇
五八八〇	三六一〇	三四二〇	三四二〇	一二九〇	一二〇
五九三〇	三六四〇	三四五〇	三四五〇	一二六〇	一二〇
五九八〇	三六七〇	三四八〇	三四八〇	一二九〇	一二〇
六〇三〇	三七〇〇	三五一〇	三五一〇	一二六〇	一二〇
六〇八〇	三七三〇	三五四〇	三五四〇	一二九〇	一二〇
六一三〇	三七六〇	三五七〇	三五七〇	一二六〇	一二〇
六一八〇	三七九〇	三六〇〇	三六〇〇	一二九〇	一二〇
六二三〇	三八二〇	三六三〇	三六三〇	一二六〇	一二〇
六二八〇	三八五〇	三六六〇	三六六〇	一二九〇	一二〇
六三三〇	三八八〇	三六九〇	三六九〇	一二六〇	一二〇
六三八〇	三九一〇	三七二〇	三七二〇	一二九〇	一二〇
六四三〇	三九四〇	三七五〇	三七五〇	一二六〇	一二〇
六四八〇	三九七〇	三七八〇	三七八〇	一二九〇	一二〇
六五三〇	四〇〇〇	三八一〇	三八一〇	一二六〇	一二〇
六五八〇	四〇三〇	三八四〇	三八四〇	一二九〇	一二〇
六六三〇	四〇六〇	三八七〇	三八七〇	一二六〇	一二〇
六六八〇	四〇九〇	三九〇〇	三九〇〇	一二九〇	一二〇
六七三〇	四一二〇	三九三〇	三九三〇	一二六〇	一二〇
六七八〇	四一五〇	三九六〇	三九六〇	一二九〇	一二〇
六八三〇	四一八〇	三九九〇	三九九〇	一二六〇	一二〇
六八八〇	四二一〇	四〇二〇	四〇二〇	一二九〇	一二〇
六九三〇	四二四〇	四〇五〇	四〇五〇	一二六〇	一二〇
六九八〇	四二七〇	四〇八〇	四〇八〇	一二九〇	一二〇
七〇三〇	四三〇〇	四一一〇	四一一〇	一二六〇	一二〇
七〇八〇	四三三〇	四一四〇	四一四〇	一二九〇	一二〇
七一三〇	四三六〇	四一七〇	四一七〇	一二六〇	一二〇
七一八〇	四三九〇	四二〇〇	四二〇〇	一二九〇	一二〇
七二三〇	四四二〇	四二三〇	四二三〇	一二六〇	一二〇
七二八〇	四四五〇	四二六〇	四二六〇	一二九〇	一二〇
七三三〇	四四八〇	四二九〇	四二九〇	一二六〇	一二〇
七三八〇	四五一〇	四三二〇	四三二〇	一二九〇	一二〇
七四三〇	四四四〇	四三五〇	四三五〇	一二六〇	一二〇
七四八〇	四四七〇	四三八〇	四三八〇	一二九〇	一二〇
七五三〇	四五〇〇	四四一〇	四四一〇	一二六〇	一二〇
七五八〇	四五三〇	四四四〇	四四四〇	一二九〇	一二〇
七六三〇	四五六〇	四四七〇	四四七〇	一二六〇	一二〇
七六八〇	四五九〇	四五〇〇	四五〇〇	一二九〇	一二〇
七七三〇	四六二〇	四五三〇	四五三〇	一二六〇	一二〇
七七八〇	四六五〇	四五六〇	四五六〇	一二九〇	一二〇
七八三〇	四六八〇	四五九〇	四五九〇	一二六〇	一二〇
七八八〇	四七一〇	四六二〇	四六二〇	一二九〇	一二〇

第一地區 乙 建物其他の工作物移轉

昭和二年	大正十五年 昭和元年																	
	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
1	1	1	1	2	1	5	2	1	3	1	495	208	333	331	200	25	3	5
1,722	1,723	1,721	1,700	1,700	1,708	1,707	1,702	1,700	1,699	1,696	1,696	1,101	993	600	399	209	94	63
1	1	1	1	2	5	6	38	39	38	35	32	19	147	33	35	33	20	1
1,722	1,721	1,700	1,709	1,709	1,707	1,672	1,666	1,466	1,209	1,071	906	55	333	186	33	6	55	15
4	8	8	5	3	5	6	30	27	33	39	14	7	5	3	3	9	1	1
1,698	1,694	1,676	1,658	1,599	1,468	1,433	1,355	1,035	788	555	366	203	133	80	57	24	5	5
90	96	96	50	50	83	243	123	257	5	6	6	6	3	2	0	7	6	1
1,353	1,263	1,194	1,125	1,075	1,021	988	695	533	276	234	154	94	63	28	28	2	5	5

五五

大正十四年

十一月	十月	九月	八月	七月
7	6	1	1	5
48	2			55
0	1	1	1	5
5	5	5	5	5
1	1	1	5	1
5	5	5	5	5

第一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

昭和三年											
六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月
										六	
										一、七二二	一、七二二
										一、七八	一、七八
										七	
										一、七二二	一、七二二
										一、七八	一、七八
										三 八 九	
										一、七五七	一、七五七
										一、七八	一、七八
										四 七	四 七
										一、四〇七	一、四〇七
										一、四四六	一、四四六
										一、五八五	一、五八五
										一、六二七	一、六二七
										一、六三六	一、六三六
										一、六四一	一、六四一
										一、六六八	一、六六八
										一、七〇二	一、七〇二
										一、七〇七	一、七〇七
										一、七〇七	一、七〇七
										一、七七八	一、七七八

第二節 代執行

移轉命令を受け指定期限を經過し、現場係員より工事實施方に付屢次誘導督勵を爲すも容易に其の義務を果さざる爲、戒告を爲したるもの建物三十一棟、工作物一件ありたり。
 戒告後尙其の義務を履行せざる爲、代執行を爲したるもの建物一棟あり、右は換地豫定地に不服を懷き故意に移轉せざりしに因るものなり。
 行政執行法に依り處分したるものを表示すれば左の如し。

區	分	件	數	建 物 棟 數	工 作 物 件 數
戒告書を發したるもの			一 元 三		
戒告後自ら移轉したるもの					
代執行を爲したるもの			一 三 三		

務を果さざる爲、戒告を爲したるもの建物三十一棟、工作物一件ありたり。
 戒告後尙其の義務を履行せざる爲、代執行を爲したるもの建物一棟あり、右は換地豫定地に不服を懷
 き故意に移轉せざりしに因るものなり。
 行政執行法に依り處分したるものを表示すれば左の如し。

區	分	件	數	建物棟數	工作物件數
戒告書を發したるもの			三		
戒告後自ら移轉したるもの			二		
代執行を爲したるもの			一		

第三節 臨時收容家屋

移轉工事開始前に於て臨時收容家屋準備の必要を認め、大正十四年七月五番町十四番に移動式住宅八棟、同物置四棟を設置し、翌十五年二月より希望者に使用せしめ、爾來移轉工事の進捗に伴ひ使用希望者増加したるを以て順次増設を爲し、工事終了の直前迄其の用に供したり、之が棟數及收容世帶數等を示せば左の如し。

設置場所	棟數		設置		撤去		期		間		住		宅		容	
	住宅	物置	年	月	年	月	住宅	物置	世帶數	一棟當世帶數	人員	一棟當人員	世帶數	一棟當世帶數		
麴町區五番町十四番	八	四	大正	二、四、七	昭和	二、三	自大正	二、五、二	至昭和	二、一	七	九〇〇	三六七	四五・八七	三五	八・七三
同	三	一	同	一、五、一	同	二、二	自大正	一、五、七	至昭和	二、一	一七	五・六七	八	二元・六七	一	一

第一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

同 丁目三十五番	同 五番町十	同 平河町五 丁目三十五番	同	同 一番町十	同 四番	同 平河町五 丁目三十五番	同 上六番町 四十番	同 一番町十 八番	同 一番町十 四番	同 上六番町 四十七番	同 上六番町 八番ノ三四	同 五番町十 四番	同 上六番町 八番ノ三四
二	七	二	六	三	三	一	三	七	七	九	六	九	六
一	六	一	六	六	六	三	七	一〇	五	四	一	二	二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一五、一〇	一五、二〇	一五、三〇	一五、四〇	一五、五〇	一五、五〇	一五、五〇	一五、六〇	一五、九〇	一五、九〇	一五、一〇〇	一五、一〇〇	一五、二〇〇	一五、二〇〇
二、七	二、二	二、七	二、七	三、三	三、三	二、八	二、七	二、七	三、〇	三、〇	三、一	三、一〇	三、一〇
自大正一五、九	至昭和二、七	自大正一五、九	自大正一五、九	自大正一五、七	自大正一五、七	自大正一五、八	自大正一五、七	自大正一五、七	自大正一五、九	自大正一五、九	自大正一五、一〇	自大正一五、一〇	自大正一五、一〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
二七	三六	一五	四八	一九	一九	一	三四	二七	一五	九〇	七三	一七	二四
三・五〇	五・四〇	二・五〇	八・〇〇	二・三・六	二・三・六	一	一四・八三	七・四七	二・三・五七	一〇・〇〇	二・二・〇〇	一九・六	一九・〇〇
一三七	二〇一	一三五	二四六	一・五・六二	一・五・六二	一	一・七・六	六・五三	八〇・二七・一四	四六・七	三八〇	八九二	五九〇
六・五〇	二六・七一	六・五〇	四一・〇〇	二・二〇・五	二・二〇・五	一	七五・〇四	三六・三五	二七・一四	五・八九	六三・三三	九九・二	九八・三三
一	二九	一	七	三	三	一	一一	六	五	四	九	三	二
一	四・八三	一	二・六七	一〇・三三	二〇・一七	一〇・三三	一六・〇〇	六・〇〇	一〇・六〇	一一・五〇	九・〇〇	一六・〇〇	二・五〇

同 平河町五 丁目二十七番	計
二〇	二八
九	空
三、二	同
三、四	同
自昭和二、二	同
同	同
上	上
二四	一、八九
一一・二〇	一三・三五
一、四九	九、四三
五・四五	六・二
三六	六二
四・三	一〇・一七

同 八番ノ三、四	同 四番 五番町十	同 八番ノ三、四 上六番町
六	九	六
二昭和三、一同	二同 一五、二同	一同 一五、一〇同
三、一〇 至同	三、一〇 自大正一五、一〇 至昭和三、一〇	三、一〇 自大正一五、一〇 至昭和三、一〇
上	上	上
一四 一九〇〇	一七 一九七六	七 二二〇〇
五九〇 九・三三	八九二 九・二一	三八〇 六三・三三
一五 二・五〇	三 一六〇〇	九 九〇〇

第四節 宅地造成

同 丁目二十七番	同 平河町五
二八	二〇
空	九同 二、二同 三、四 自昭和二、三、二同
一	上
一、八九 一三・三五	三四 一一・二〇 一、一四九 五・四五 三 四・三
九、四三 六・二	六二 一〇・七

本地區の地勢は全般に亘り高低起伏著しく、在來道路は概して急勾配のもの多し、更に宅地に就て見るに住宅地の大部分は土留石垣を以て保持せられたるもの多く、且道路勾配の変更は延いて宅地造成工事の必要を多からしめ、工事件數百二十六件二百六十四個所の多きに及べり、而して工事種別は土留工事最も多く九十二件百二十二箇所内大谷石積工八十三件百十三箇所此の面坪千三百八十八坪五二、板柵工三件三箇所此の面坪二十八坪七二、間知石積工四件四箇所此の面坪二十四坪八八、コンクリート工二件二箇所此の面坪十七坪六八其の他盛土工二十一件九十箇所、切土工九件四十八箇所、假下水四件四箇所なり。

工事著手は大正十五年三月平河町四丁目十一番の土留板柵工を最初とし、それより建物移轉の進捗に伴ひ逐次各種工事を施行せり、而して前述の如く地形高低起伏多かりし爲、道路工事實施に當り勾配の変更せられたる箇所ありたると、建物移轉後半期に至り急速に進捗し、工事一時に輻輳したるとに因り、係員の配置並請負人の督勵等に豫想外の困難を爲したるも工事は逐次進捗し、昭和三年九月五番町六番の土留石垣工を最後とし、百二十六件の工事を全部完了したり、之に因る宅地造成完了面積は二萬百五坪六合二勺なり、其の工事状況を見るに左の如し。

第一地區 乙 建物其の他の工作物移轉

工事種別	工事 件數 個所	數量	金額	内		營		請		譯	
				件數	個所	金額	件數	個所	數量	金額	
假下水	四	六・五〇 ^間	二六・五九 ^円	—	—	—	四	四	六・五〇 ^間	二六・五九 ^円	—
土留工	九	二三二、三九・八〇 ^{面坪}	四、二一・五七	—	—	—	九	九	二三二、三九・八〇 ^{面坪}	四、二一・五七	—
盛土工	三	九〇一、五三・八七 ^{立坪}	七、六九・六八	三	三	四・八〇	一八	八七	五三・四三 ^{立坪}	七、五八・八八	—
切土工	九	六〇七・四四 ^{立坪}	三、六〇・五三	—	—	—	九	四	六〇七・四四 ^{立坪}	三、六〇・五三	—
計	二六	—	五、六四・七七	三	三	四・八〇	二三	二六	—	五、五七・七七	—

丙 地下埋設物其他工作物整理

第一章 概説

本地區は比較的廢道少なく特殊工事無かりしも、市施行地區中初期の工事に屬せるを以て取扱上の經

丙 地下埋設物其他工作物整理

第一章 概 説

本地區は比較的廢道少なく特殊工事無かりしも、市施行地區中初期の工事に屬せるを以て取扱上の經驗淺く爲に進捗上尠からず困難を來したり、而して本地區の工事數量は本技管線處理電柱四百七十一本、管線路一萬八千二百五十四間三、其の他五百七十七箇所(一地區集計電柱百二十三本、管線路一萬千三百七十一間三、應急整理一工事電柱四十本、管線路二千五百五十六間一、其の他五百七十一箇所、假本整理電柱三百八本、管線路四千三百二十六間九、其の他六箇所)及私有管線處理四千六百五十九件にして、内道路占用の許可又は承認を爲したる要求工事五百四十九件、内道路後修を要したるもの二百五十二件なり、之を事業別に見るときは水道工作物管線路五千二百九十六間五、其の他千五百二十八件及六十五箇所整理費八萬千七百六十八圓八十七錢、市電工作物電柱百三本、管線路三千五百四十一間、其の他百六十六件及十箇所整理費一萬六千九百八十六圓十三錢、東電工作物電柱三百六十八本、管線路四百九十一間七、其の他千六百九十六件及二箇所整理費三萬八千九百六十六圓九十五錢、瓦斯工作物管線路八千九百二十五間一、其の他千二百六十六件及五百箇所整理費七萬五千五百三十三圓六十四錢、私設電話三件整理費二十六圓六十錢なり、而して本地區に於ける整理費は二十萬八千八百二十九圓にして、内私有管線の七萬八千九百三十三圓を最高とし、一地區集計の五萬六千五百九十八圓八十七錢之に次ぎ、其の他は應急整理一工事、假本整理、道路後修の順序なり、是等の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

種別	大正十四年		大正十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		計																																																																																				
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額																																																																																					
第一地區 計	1,090.73	450,600.00	79本	3,488,377.00	33本	1,632,240.00	5本	58,520.00	7本	26,177.00	123本	5,395,290.00	100																																																																																				
電柱	1,090.73	450,600.00	79本	3,488,377.00	33本	1,632,240.00	5本	58,520.00	7本	26,177.00	123本	5,395,290.00	100																																																																																				
管線路																																																																																																	
應急 管線路			146ヶ所	1,074,771.00	3ヶ所	4,140,040.00	4ヶ所	4,140,040.00	4ヶ所	4,140,040.00	5ヶ所	6,725,335.00	36,725,335																																																																																				
整理 管線路			591ヶ所	3,104,033.00	146ヶ所	1,460,910.00	496ヶ所	3,923,930.00	7ヶ所	1,065,570.00	232ヶ所	2,321,642.00	26,729,112																																																																																				
其他 管線路			1ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	6,725,335																																																																																				
假 管線路			93ヶ所	674,690.00	3ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	3ヶ所	688,443.00	18,050,998	整理 其他			26ヶ所	434,418.00	8本	37,570.00	10本	285,530.00	2本	91,326.00	4本	29,000.00	10,135,997	其他			93ヶ所	674,690.00	3ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	3ヶ所	688,443.00	18,050,998	私有 管線	26件	434,418.00	3,019.51	1,311,011.00	1,537.77	2,050,900.00	747.77	1,003,359.00	27.77	53,398.00	4,659.51	78,933,000.00	7,798,300	道路 後修			8件	1,133,333.00	206件	4,999,496.00	33件	582,740.00	6件	1,133,377.00	25件	7,798,300.00	108,803,190	合計	3,844.76		7,312.02		7,918.89		10,393.33		13,640.75		13,977.91		108,803,190	進捗 歩合%	100		100		100		100		100		100		100
整理 其他			26ヶ所	434,418.00	8本	37,570.00	10本	285,530.00	2本	91,326.00	4本	29,000.00	10,135,997	其他			93ヶ所	674,690.00	3ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	3ヶ所	688,443.00	18,050,998	私有 管線	26件	434,418.00	3,019.51	1,311,011.00	1,537.77	2,050,900.00	747.77	1,003,359.00	27.77	53,398.00	4,659.51	78,933,000.00	7,798,300	道路 後修			8件	1,133,333.00	206件	4,999,496.00	33件	582,740.00	6件	1,133,377.00	25件	7,798,300.00	108,803,190	合計	3,844.76		7,312.02		7,918.89		10,393.33		13,640.75		13,977.91		108,803,190	進捗 歩合%	100		100		100		100		100		100		100														
其他			93ヶ所	674,690.00	3ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	1ヶ所	1,074,771.00	3ヶ所	688,443.00	18,050,998	私有 管線	26件	434,418.00	3,019.51	1,311,011.00	1,537.77	2,050,900.00	747.77	1,003,359.00	27.77	53,398.00	4,659.51	78,933,000.00	7,798,300	道路 後修			8件	1,133,333.00	206件	4,999,496.00	33件	582,740.00	6件	1,133,377.00	25件	7,798,300.00	108,803,190	合計	3,844.76		7,312.02		7,918.89		10,393.33		13,640.75		13,977.91		108,803,190	進捗 歩合%	100		100		100		100		100		100		100																												
私有 管線	26件	434,418.00	3,019.51	1,311,011.00	1,537.77	2,050,900.00	747.77	1,003,359.00	27.77	53,398.00	4,659.51	78,933,000.00	7,798,300	道路 後修			8件	1,133,333.00	206件	4,999,496.00	33件	582,740.00	6件	1,133,377.00	25件	7,798,300.00	108,803,190	合計	3,844.76		7,312.02		7,918.89		10,393.33		13,640.75		13,977.91		108,803,190	進捗 歩合%	100		100		100		100		100		100		100																																										
道路 後修			8件	1,133,333.00	206件	4,999,496.00	33件	582,740.00	6件	1,133,377.00	25件	7,798,300.00	108,803,190	合計	3,844.76		7,312.02		7,918.89		10,393.33		13,640.75		13,977.91		108,803,190	進捗 歩合%	100		100		100		100		100		100		100																																																								
合計	3,844.76		7,312.02		7,918.89		10,393.33		13,640.75		13,977.91		108,803,190	進捗 歩合%	100		100		100		100		100		100		100																																																																						
進捗 歩合%	100		100		100		100		100		100		100																																																																																				

備考 一 數量欄中には附帯工事數量は掲げざるも金額は合算せり。
二 事業者別合計欄數量には道路後修の數量を含まず。

年度別工事進捗状況

種別	大正十四年	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	計
第一地區 計	1,090.73	79本	33本	5本	7本	123本	100
電柱	1,090.73	79本	33本	5本	7本	123本	100
管線路							
應急 管線路		146ヶ所	3ヶ所	4ヶ所	4ヶ所	5ヶ所	36,725,335
整理 管線路		591ヶ所	146ヶ所	496ヶ所	7ヶ所	232ヶ所	26,729,112
其他 管線路		1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	6,725,335
假 管線路		93ヶ所	3ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	3ヶ所	18,050,998
整理 其他		26ヶ所	8本	10本	2本	4本	10,135,997
其他		93ヶ所	3ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	3ヶ所	18,050,998
私有 管線	26件	3,019.51	1,537.77	747.77	27.77	4,659.51	78,933,000.00
道路 後修		8件	206件	33件	6件	25件	108,803,190
合計	3,844.76	7,312.02	7,918.89	10,393.33	13,640.75	13,977.91	108,803,190
進捗 歩合%	100	100	100	100	100	100	100

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理
國市負擔區分

種別	水道		市電		東電		瓦斯	斯電	電話	計
	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔	國負擔	市負擔				
一地區集計	二,八〇七・四三	六二六・一七	七四七・五四	二,六〇・七一						六,七九一・八五
	二〇,五七七・八六	四,五八・六二	五,四八二・〇〇	一九,二八・五四						四九,八〇七・〇二
應急整理一工事	二二,三九五・二九	五,一三四・七九	六,三三九・四四	二二,八九九・三五						五六,五八・八七
	一七,三六五・四六	七六・四九								七六・四九
假本整理	一七,三六五・四六	四,五〇・四六	五,五五〇・〇四	八,九四六・三三						三六,三六七・二九
	七,七四五・四二	四,五九六・九五	五,五五〇・〇四	八,九四六・三三						三六,四六三・七六
業者拂	五,九九八・五一	五,一〇二・一〇	一〇,一九六・三七	五,七四四・三五						二九,〇〇八・二四
	三三,二六二・六三	九三〇・八四	八,六七六・八〇	二二,六五・二二						一六,一〇〇・八三
現金補償個人	二八,二六一・二四	一,二六八・八三	一〇,八三〇・四八	二九,三七・七七						六九,五八六・三三
	三〇四・七九	四二・二四	二,三六七・四六	四四四・三五						三,二四・八四
計	一,〇一九・八九	一四七・九〇	三,二四六・二七	一,六九・二八						六,一三・九四
	一,三六〇・六八	一九〇・一四	五,六三三・七三	二,一三五・三三						九,三四六・六八
計	六,三三九・三〇	二二八・三三	四,五三一・一四	八,二七・〇〇						一九,三三五・六七
	二二,二八二・五二	一,〇七八・七四	一一,九二二・〇七	三三,〇六・四〇						五九,六六七・三三
計	二九,六二二・八二	一,三〇六・九七	一六,四五四・二二	三一,五三三・四〇						六九,九三三・〇〇

合	道路後修		計
	市負擔	國負擔	
市負擔	三,六四〇・八八	七四五・三三	四,三九〇・三一
國負擔	九,一四六・七三	九〇・八九	九,二三七・七二
計	七,六三三・二四	一六,〇〇五・二四	六〇,二二五・九三
計	八二,七六八・八七	一六,九八六・一三	七二,〇三三・四四
市負擔			二六・六〇
國負擔			二六・六〇
計			二〇八,八〇二・一九

第二章 本技管線處理

第一節 應急整理一地區集計

本地區に於ける當初契約數量は電柱百十六本、管線路一萬千十六間八及之に關係せる各種工作物にして、此の整理費六萬三千三百七十四圓七十六錢なり、而して假契約は瓦斯工作物に關し大正十五年三月三十日締結したるを、工事は同工作物に關し同日著手したるを、本契約は同工作物に關し昭和二年十二月十日締結したるを各最初とし、それより逐次各事業者と契約を締結し工事を施行したり、其の事業者別契約並工事狀況を示せば左の如し。

事業者	假契約年月日	本契約年月日	工事著手年月日	工事竣功年月日
市水道局	大正一五、四、六	昭和三、五、二〇	大正一五、四、六	昭和四、一〇、二〇
市電氣局	大正一五、六、三	昭和三、三、一	大正一五、七、三	昭和四、四、三
東京電燈株式會社	大正一五、六、七	昭和三、三、三	大正一五、八、一	昭和四、四、三
東京瓦斯株式會社	大正一五、三、三〇	昭和二、三、二〇	大正一五、三、三〇	昭和三、八、三

工事施行中設計變更を要したる件數四十五件ありたる結果整理數量に於て増加したるも、工作物の種類其の他の關係上工事費に於ては六千七百七十五圓八十九錢の減額を爲せり、其の設計變更狀況を示せば左の如し。

種別	電柱		管線路		計
	數量	金額	數量	金額	
當初契約	二六本	五、八八、二元	一一、〇六、八	五、四八、五元	三六、三四、一六
設計變更後(精算)	二三	五、三三、二元	一一、三七、三	五、二〇、三、五元	五、五九、八七
差引増△減	七△	四九四、〇〇	三四、五△	六、二八、一八元	六、七五、八九

工事施行中設計變更を要したる件數四十五件ありたる結果整理數量に於て増加したるも、工作物の種類其の他の關係上工事費に於ては六千七百七十五圓八十九錢の減額を爲せり、其の設計變更狀況を示せば左の如し。

種別	電		柱		管線		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
當初契約	二六 _本			五、八八九 _円	一一、〇六 _間	五七、四八五 _円	三、三四 _円
設計變更後(精算)	二三			五、三九五 _円	一一、三七 _間	五、二〇三 _円	五、五九 _円
差引増△減	七	△	四九四 _円	△	三五 _間	六、二八 _円	△
							六、七五 _円

尙工事並支拂狀況を示せば左の如し。
工事進捗狀況

年度	電		柱		管線		計	歩合%
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
大正十四年	一 _本			一、〇九〇 _円	一、九〇 _間	三、四五〇 _円	三、四五〇 _円	六
大正十五年	九			三、四八八 _円	二、七九 _間	一一、五四 _円	一五、〇三 _円	二七
昭和元年	三			一、六三二 _円	二、八四 _間	三、七六 _円	一五、三九 _円	二七
昭和二年	五			五、五二	三、七二 _間	二、六五 _円	一二、七四 _円	三三
昭和三年	七			二、六二八	一、〇四 _間	九、七九 _円	九、九五 _円	一八
昭和四年	三			五、三九五 _円	一一、三七 _間	五、二〇三 _円	五、五九 _円	一〇〇

支拂狀況

年 度	國 負 擔	市 負 擔	計	步 合 %
昭 和 三 年	三、五五・四三	二六、〇四・四二	二九、五五・八五	五三
昭 和 四 年	一、八三・七二	一三、六六・八六	一五、五〇・五八	二七
昭 和 五 年	一、三六・七〇	一〇、〇五・七四	一一、四二・四四	二〇
計	六、七二・八五	四九、八〇・〇二	五六、五二・八七	一〇〇

第一 水 道

一 契 約 大正十五年四月六日管線路二千三百八十三間七及關係工作物に對し整理費二萬五千二百三十圓十四錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和三年五月十日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國三千二十七圓六十一錢、市二萬二千二百三圓五十三錢なり。

二 工 事 大正十五年四月六日假契約成立せるを以て同日最初の工事要求を爲し、同日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中四件の設計變更を爲したる結果、新設千八百六十七間六、撤去四百六間七、埋殺百七十八間四計二千四百五十二間七となり、管線路に於て六十九間の減少を爲したり、而して昭和四年十月十日を以て總工事を完了し、同五年三月三十一日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	管 線		路 額	步 合 %
	數	量 金		
大 正 十 五 年		四、五九・四	四、三〇・九二	一九
昭 和 二 年		八〇四・五	七、六三・六	三三
昭 和 三 年		一、六四・〇	一、五七・八	六

七間六、撤去四百六間七、埋殺百七十八間四計二千四百五十二間七となり、管線路に於て六十九間の減少を爲したり、而して昭和四年十月十日を以て總工事を完了し、同五年三月三十一日竣功検査を了したり、其の進捗状況を示せば左の如し。

年 度	管 線		路 額	歩 合 %
	數	量 金		
大正十五年		四、三〇四・九二	四、三〇四・九二	元
昭和二年		八〇四・五	七、六七三・六	三
昭和三年		一六四・〇	一、五七〇・八	六
昭和四年		一、〇四・八	九、七九二・三	四
計		二、四三二・七	三三、三三二・元	一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額二萬五千二百三十圓十四錢、内國負擔三千二十七圓六十一錢、市負擔二萬二千二百二圓五十三錢にして、第一回前渡金は昭和三年五月三十一日、第二回前渡金は同四年二月六日支拂手續を爲し、同五年九月四日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額二萬三千三百九十五圓二十九錢となり契約金額に比し千八百三十四圓八十五錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設千四百六十四間九金額一萬三千五百七十六圓十四錢、移設四百二間七金額八千二百八十六圓七十二錢、其の他百十四間三金額千五百三十二圓四十三錢にして國市負擔區分は國二千八百七圓四十三錢、市二萬五百八十七圓八十六錢なり、其の精算状況を示せば左の如し。

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理
負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	一、六七〇・七〇 ^坪	三三	三、〇七・六一 ^円	二、八七・四三 ^円	△ 二〇・一八 ^円
補助線街路費	二、九三九・五五	二〇	五、〇四六・〇三	四、六七九・〇六	△ 三六六・九七
市負擔 土地整理費	八、八五・八九	六二	一五、六四二・六九	一四、五〇五・〇八	△ 一、一三七・六一
小公園費	八五・二元	六	一、五三三・八一	一、四〇三・七二	△ 一〇〇・〇九
計	二、二六七・七三	八	三三、二〇三・五三	三〇、五八七・八六	△ 一、六四・六七
合計	一四、二八・四三	一〇〇	三五、二三〇・一四	三三、三九五・二九	△ 一、八四・八五

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	一三、一三・六八 ^円	一二、一三・四四 ^円	△ 一、〇一九・二四 ^円
過不足分(一致せざる部分)	九、八三・七五	九、七四九・四二	△ 八四・三三
累計する分	七六六・六四	六六二・六五	△ 一〇三・九九
小計	三三、七三・〇七	三三、五三・五一	△ 一九七・五六
附帯工事分(假工事を含む)	一、四七・〇七	八六九・七六	△ 六七二・六九
補償額計	三五、二〇〇・一四	三三、三九五・二九	△ 一、八四・八五

第二電氣

(イ) 市電

一 契約 大正十五年六月十三日電柱三十九本、地中線千六百六十三間四及關係工作物に對し整理費五千七百八十九圓四錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和三年三月一日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國六百九十四圓六十八錢、市五千九十四圓三十六錢なり。

二 工事 大正十五年六月十三日假契約成立せるを以て同年七月三日最初の工事要求を爲し、同年

昇	計	分	七六・六四	六二・六五	△	二二・九
小	計	分	三、七五・〇七	三、五三・五一	△	一、三三・五
附帶工事分(假工事を含む)			一、四七・〇七	八九・七	△	六〇七・元
補償額計			三、三〇・〇四	三、三九・二九	△	一、八四・八五

第二電氣

(イ) 市電

一 契約 大正十五年六月十三日電柱三十九本、地中線千六百六十三間四及關係工作物に對し整理費五千七百八十九圓四錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和三年三月一日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國六百九十四圓六十八錢、市五千九十四圓三十六錢なり。

二 工事 大正十五年六月十三日假契約成立せるを以て同年七月三日最初の工事要求を爲し、同年七月三十日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中十件の設計變更を爲したる結果電柱新設十七本、撤去十八本計三十五本、地中線新設三百二十九間五、撤去千四百六間七計千七百三十六間二となり、電柱に於て四本減少し地中線に於て七十二間八の増加を爲したり、而して昭和四年四月二十三日を以て總工事を完了し、同五年二月一日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		管 線		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額		
大正十五年	三三本	二五七・三	七九・八	二、一五〇・一七	二、四〇七・四九	四七
昭和元年	四	四六・六四	六七・八	一、八五二・四九	一、八九九・一三	三
昭和二年	四	五八・五	二六・六	七三・〇二	七一・五	一五
昭和三年	五	四六・六四	—	—	四六・六四	一
昭和四年	四	四〇三・一一	一、七三六・二	四、七五・六	五、一四・七	一〇〇
計	三五	四〇三・一一	一、七三六・二	四、七五・六	五、一四・七	一〇〇

三 精算 本地區に於ける契約金額五千七百八十九圓四錢內國負擔六百九十四圓六十八錢、市負擔五千九十四圓三十六錢にして、前渡金は昭和三年三月三十日支拂手續を爲し、同五年二月二十八日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額五千三百三十四圓七十九錢となり契約金額に比し六百五十四圓二十五錢の減額を見たり、之を工種別に見るに移設電柱十七本、地中線三百二十間金額二千八百二十二圓三十一錢、撤去電柱一本、地中線千八十六間七金額千八百三十八圓九十四錢、其他地中線四十六間二金額四百七十三圓五十四錢にして國市負擔區分は國六百十六圓十七錢、市四千五百十八圓六十二錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	一、六七〇・七〇	三	六四四・六	六六二・七	△ 一八・五
補助線街路費	二、九三九・五	二〇	一、二五八・八	一、〇六六・六	△ 一九〇・八
土地整理費	八、八五三・八	三	三、五八九・三	三、一八三・五	△ 四〇五・五
小公園費	八五・元	六	三四七・三	三〇八・〇	△ 三九・四
市負擔 計	一三、二六七・三	八	五、〇四三・六	四、五八・三	△ 五七五・四
合計	一四、二八八・四	一〇〇	五、七九〇・四	五、一四四・九	△ 六四五・五

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	三、三六六・九	二、八三三・三	△ 五三四・三
過不足分(一致せざる部分)	一、八三三・七	一、八三六・九	△ 五・二
累計	五、二〇〇・六	四、七三三・七	△ 四六六・九

合計	一三、六七・七	八	五、〇四・六	四、五八・三	△	五七・四
合計	一四、二八・四	一〇〇	五、七九・四	五、二四・九	△	六四・五

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	三、三六・九	二、八三・三	△ 五四・三
過不足分(一致せざる部分)	一、八三・六	一、八六・九	△ 五・一
累計する分	五、二〇・五	四、七〇・二	△ 五〇・三
小計	五、二六・六	四、七三・七	△ 五二・九
附帯工事分(假工事を含む)	五、七九・四	五、二四・九	△ 五四・五
補償額計			

(ロ) 東電

一 契約 大正十五年六月十七日電柱七十七本、地中線二百六十八間七及關係工作物に對し整理費六千九百四十二圓五十五錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和三年三月三十一日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國八百三十三圓十錢、市六千九百四十五錢なり。

二 工事 大正十五年六月十七日假契約成立せるを以て同年七月七日最初の工事要求を爲し、同年八月一日工事に著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中十件の設計變更を爲したる結果電柱新設四十二本、撤去四十六本計八十八本、地中線新設百間、撤去百六十八間七計二百六十八間七となり、電柱に於て十一本の増加を爲したり、而して昭和四年四月十二日を以て總工事を完了し、同五年二月一日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	電 柱		管 線		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額		
大正十五年	五本	三,三三〇.四 ^円	二六八.七 ^間	一,二四三.六 ^円	四,四七四.四〇	七三
昭和二年	二六	一,五五〇.六〇	—	—	一,五五〇.六〇	二六
昭和四年	三	一六九.五四	—	—	一六九.五四	二
計	八	四,九六〇.八	二六八.七	一,二四三.六	六,三九四.四〇	一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額六千九百四十二圓五十五錢、内國負擔八百三十三圓十錢、市負擔六千九百四十五錢にして、前渡金は昭和三年六月十四日支拂手續を爲し、同五年三月十九日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額六千二百二十九圓五十四錢となり、契約金額に比し七百十三圓一錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設電柱七本金額五百六十九圓十三錢、移設電柱三十五本、地中線百間金額五千五百四十九圓三十錢、其他金額百一十一圓十一錢にして國市負擔區分は國七百四十七圓五十四錢、市五千四百八十二圓なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	一,六七〇.七〇 ^坪	三	八三三.一〇 ^円	七四七.五四 ^円	△ 八五.五六 ^円
補助線街路費	二,九一九.五五	二〇	一,三三八.五	一,二四五.九一	△ 一四二.六〇

補償金對照表

合 計	市負擔		合 計	合 計	合 計	合 計
	土地整理費	小公園費				
八,八五二.八九	八五二.元	一三,六七三.七三	一四,二八八.四三	二〇〇	六,四四二.五五	六,三三九.五四
四,三〇四.三元	四一六.五五	六,一〇三.四三	六,四四二.五五	六	—	—
三,八六二.三三	三七三.七	五,四八二.〇〇	六,三三九.五四	六	—	—
四四二.〇七	四一.七八	六七.四三	—	—	—	—



負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	一、六七〇・七〇 ^坪	三	八三三・一〇 ^円	七四七・四〇 ^円	△ 八五・五 ^円
補助線街路費	二、九三九・五五	二〇	一、三六八・五	一、二四五・九一	△ 一四一・六〇



補償金對照表

工種	市負擔		契約金額	精算金額	差引増△減
	土地整理費	小公園費			
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	八、八五二・八九	八五二・元	五、五四二・六一 ^円	五、五四九・三〇 ^円	△ 六・六九 ^円
過不足分(一致せざる部分)			六五・六	五九・三	△ 四六・一五
累計する分			二三〇・四二	一一一・二	△ 一一九・三〇
小計			六、三八八・三〇	六、三三九・四〇	△ 一五八・九〇
附帶工事分(假工事を含む)			五五四・三五	—	△ 五五四・三五
補償額計			六、九四三・三五	六、三三九・四〇	△ 七三三・〇一
合計			一〇〇	六、三三九・四〇	△ 七三三・〇一
市負擔	八、八五二・八九	八五二・元	六、三三九・四〇	六、三三九・四〇	△ 四四二・〇七
小公園費			六、一〇六・四五	五、四八二・〇〇	△ 六二七・四五
合計			六、九四三・三五	六、三三九・四〇	△ 七三三・〇一

第三 瓦 斯

一 契約 大正十五年三月三十日管線路六千七百一間及關係工作物に對し整理費二萬五千四百十三圓三錢を以て整理に關する假契約を爲し、更に昭和二年十二月十日之が本契約を締結したり、右整理費の國市負擔區分は國三千四十九圓五十六錢、市二萬二千三百六十三圓四十七錢なり。

二 工事 大正十五年三月三十日假契約成立せるを以て同日最初の工事要求を爲し、同日工事に

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

七五

著手しそれより各種工事を逐次施行したり、然るに施行中二十一件の設計變更を爲したる結果新設二千四百五十二間五、撤去九百六十三間二、埋殺三千四百九十八間計六千九百十三間七となり、管線路に於て二百十二間七の増加を爲したり、而して昭和三年八月十二日を以て總工事を完了し、同五年四月二日竣功検査を了したり、其の進捗狀況を示せば左の如し。

年 度	管 線 路		歩 合 %
	數	量 金 額	
大 正 十 四 年	一、〇九〇・七 ^間	三、四五〇・六 ^円	一六
昭 和 五 年	一、一九七・七	三、七五・三五	一七
昭 和 二 年	一、三四〇・二	四、三六・八二	元
計	三、二一九・一	一〇、三五・四八	四八
昭 和 三 年	六、九三・七	二、八三・三五	一〇〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額二萬五千四百十三圓三錢、内國負擔三千四百九圓五十六錢、市負擔二萬二千三百六十三圓四十七錢にして、第一回前渡金は昭和三年四月十四日、第二回前渡金は同年十月九日支拂手續を爲し、昭和五年六月四日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額二萬千八百三十九圓二十五錢となり契約金額に比し三千五百七十三圓七十八錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設千五百九十間三金額九千九百四十三圓八十五錢、移設八百六十二間二金額八千五百五圓十一錢、その他八十九間四金額三千三百九十圓二十九錢にして國市負擔區分は國二千六百二十圓七十一錢、市一萬九千二百七十八圓五十四錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	一、六七〇・七〇 ^坪	三三	三、〇四九・五六 ^円	二、六〇〇・七一 ^円	△ 四八・八五 ^円
補助線街路費	二、九三・五五	二〇	五、〇六・六一	四、三六七・八五	△ 七四・七六
市負擔 土地整理費	八、八五・八九	三三	一五、七五・〇八	一三、五四・三兩	△ 二、二〇・七四
小公園費	八五・元	六	一、五四・七八	一、三〇・三五	△ 二四・四三

設計變更の結果精算金額二萬千八百三十九圓二十五錢となり契約金額に比し三千五百七十三圓七十八錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設千五百九十間三金額九千九百四十三圓八十五錢、移設八百六十二間二金額八千五百五圓十一錢、その他八十九間四金額三千三百九十圓二十九錢にして國市負擔區分は國二千六百二十圓七十一錢、市一萬九千二百十八圓五十四錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	一、六七〇・七〇 ^坪	三	三、〇四九・五 ^円	二、六二〇・七一 ^円	△ 四八・八五 ^円
補助線街路費	二、九三九・五	二〇	五、〇八二・六	四、三六七・八五	△ 七四・七六
土地整理費	八、八五二・八九	六三	一五、七五六・〇八	一三、五四〇・三四	△ 二、二一五・七四
市負擔 小公園費	八五・二九	六	一、五四・七六	一、三〇・三五	△ 二四・四三
計	一二、六七・七三	八	三三、三六・四七	一九、二八・五四	△ 三、一四・九三
合計	一四、二八・四三	一〇〇	三五、四三・〇三	三二、八三九・二五	△ 三、五七三・七八

補償金對照表

工種	契約金額	精算金額	差引増△減
既設工作物と整理工作物と一致せる部分	一六、九三・一七 ^円	一五、五四・三三 ^円	△ 一、三五・八四 ^円
過不足分(一致せざる部分)	三、四九・五七	二、八四・六三	△ 五四・九四
累計する分	二、七四・〇一	二、八七・〇四	△ 一三・〇三
小計	三三、一〇・七五	三二、三〇・〇〇	△ 八〇七・七五
附帯工事分(假工事を含む)	二、三〇・二七	五九・二五	△ 一、七〇・〇二
補償額計	三五、四一・〇二	三二、八九・二五	△ 三、五二・七七

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第二節 應急整理一工事

本地區に於ける應急整理一工事は件數二百二十六件整理費三萬六千四百六十三圓七十八錢にして昭和二年二月十四日東京瓦斯株式會社關係工作物の整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは水道局六十二件金額一萬七千三百六十五圓四十六錢、市電氣局二十七件金額四千五百九十六圓九十五錢、東京電燈株式會社二十五件金額五千五百五十五圓四錢、東京瓦斯株式會社百十二件金額八千九百四十六圓三十三錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事種別

種別	水道		市電		東電		瓦斯		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
道路工事	電柱	九七・四	四八八・四	一八二・五	一八二・五	一	一、九二五・六	二七	一、七七・四八
	管線路	一五、〇八一・八	二、五〇一・八	一四三・八	三、九六〇・九	三五六・〇	一、九二五・六	二四、六〇・八	六、二五〇・五
	其他	一、八八五・三	一五・六	一	七五・四〇	五〇〇	四、一〇四・九	五〇	六、一五〇・五
建築物移轉	電柱	一六、九六七・二	二、八九四・三〇	四、〇六七・三	八、一八〇・三六	一	三、六八八・八七	九	六、八〇・四九
	管線路	一	一五〇・七五	五	五九・七四	七	二、一七八・二	一	四七四・八四
	其他	三九八・三	七六・四九	一	七六・四九	一	三、三三三・五七	一	四八一・三
出入口支障	電柱	三九八・三	一、六三九・四一	二	四八・〇〇	一	七六・〇七	四	四八一・三
	管線路	一	六三・二	一	五九・四	一	七六・〇七	一	一、三三三・五七
	其他	一	六三・二	一	五九・四	一	七六・〇七	一	一、三三三・五七
合計	電柱	一	四〇・七六	一六	二四二・五八	二四	二、九三九・三一	四〇	二、九三九・三一
	管線路	一五、〇八一・八	三、九一四・〇一	一四三・八	四、八四二・二四	二、五五六・一	二六、七九・二	二四、六〇・八	六、七五・三五
	其他	二、八八五・三	一、六三九・四一	一	七六・四九	一	七六・〇七	一	三、三三三・五七

工事進捗状況

合計	電柱		管線路		其他	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
合計	一	四〇・七六	一五、〇八一・八	三、九一四・〇一	二、八八五・三	一、六三九・四一
	一六	二四二・五八	一四三・八	四、八四二・二四	一	七六・四九
	二四	二、九三九・三一	二、五五六・一	二六、七九・二	一	七六・〇七

年 度	支拂狀況		年 度	電 柱	管 線	其 他	計
	國 負 擔	市 負 擔					
昭和十五年	四〇	二,九九三・三	四,五九九・六	三本	五九一・八 ^間	一,〇七四・七 ^間	四,八八〇・八 ^間
昭和十四年	八	二,三〇一・六	四,五九九・六	二五	一,四六〇・九	四,一四〇・四	二五,三三六・六
昭和十三年	四	四九二・九	四,五九九・六	四五	三,九三三・九	四〇一・四	四,七三三・六
昭和十二年	二五	一,六四七・七 ^二	四,五九九・六	二五	一九,四〇・五 ^二	四,一四〇・四	二五,三三六・六
昭和十五年計	四〇	二,九九三・三	四,五九九・六	三本	五九一・八 ^間	一,〇七四・七 ^間	四,八八〇・八 ^間

工事進捗状況

合 計	電 柱		管 線		其 他		計
	管線路	電柱	數量	金額	數量	金額	
計	九七 ^間	一	四,五九六・九五	一五,五五五・〇四	七五・四〇	一八,九四六・三三	三六,〇四三・六八
管線路	九七 ^間	一	四,五九六・九五	一五,五五五・〇四	七五・四〇	一八,九四六・三三	三六,〇四三・六八
電柱	一	一	一	一	一	一	一
其他	六五 ^{ケ所}	一	一	一	一	一	一

支 出 入 口	建 物 移 轉 支 障		支 出 入 口	電 柱	管 線 路	其 他	計
	管線路	其他					
計	一〇 ^{ケ所}	一	三九八・三五	一	一,四二二・二七	七・四 ^間	六八〇・四九
管線路	一〇 ^{ケ所}	一	三九八・三五	一	一,四二二・二七	七・四 ^間	六八〇・四九
其他	一	一	一	一	一	一	一
電柱	一	一	一	一	一	一	一

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭和三	昭和四	昭和五	計
六・四九	—	—	六・四九
二四、〇三・一五	三、三九〇・四九	四、三〇四・〇七	三六、三三七・二九
二四、一七九・六四	三、三九〇・四九	四、三〇四・〇七	三六、四六三・七六
六	九	三	一〇〇

第一 水道

工事は昭和二年二月元園町一丁目十八番地先より五番町八番地先に至る水道鐵管移設並消火栓改築工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同五年七月五番町八番地先に於ける消火栓移設工事を最終とし六十二件の工事を全部完了したり、而して之に要したる整理費は一萬七千三百六十五圓四十六錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	管 線		其 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
大正十五年	空 ^間 ・八	一、五三三・二三	九 ^{ヶ所}	三三三・元	一、八五五・五三	二
昭和元年	七・七二	一、六六二・五五	三六	七四七・二四	三、四〇九・六九	三
昭和二年	七・一	一、六五五・五	三	一三六・六三	一、七九二・一八	一〇
昭和三年	—	—	一	一〇・八六	一〇・八六	一
昭和四年	七・三	二、三三・六四	七	一、〇六五・五七	一、二九七・二二	六
昭和五年	九・七四	一、五〇八・八八	空	二、二八三・五八	一七、三三三・四六	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負	擔	歩 合 %
昭和二年	—	一、九六・五九	二
昭和三年	—	八、五五・八七	九
昭和四年	—	二、九三・六四	七

昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	計
六・一	一	七・三	九七・四
一、六五・五	一	一三二・六	一五、〇八・八
三	一	七	室
一、六・三	一〇・六	一、〇五・五	二、二八・六
一、七三・八	一〇・六	一、二九・二	一七、三三・四
一〇	一	六	一〇〇

支拂状況

年	昭 和 二 年	昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	計
度	年	年	年	年	年
市					
負					
擔	一、九八・五	八、五五・八	二、九三・六	三、九三・三	一七、三三・四
歩					
合					
%	二	四七	一三	二二	一〇〇

第二電氣

(イ) 市電

工事は昭和二年二月五番町九番地先より同町十三番地先に至る電纜移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、昭和五年二月元園町二丁目九番地先電柱新設工事を最終とし二十七件の工事を全部完了したり、而して之に要したる整理費は四千五百九十六圓九十五錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年	昭 和 十 五 年	大 正 十 五 年	計
電	數量	數量	數量
柱	金額	金額	金額
管	數量	數量	數量
線	金額	金額	金額
路	數量	數量	數量
其	金額	金額	金額
他	金額	金額	金額
計			
歩			
合%			

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

工事は昭和二年三月富士見町一丁目二十三番地先に於ける電柱移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、昭和三年十一月同く富士見町一丁目二十三番地先に於ける電柱移設工事を最終とし二十五件の工事を全部完了したり、而して之に要したる整理費は五千五百五十五圓四錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		管 線		其 の 他		計	歩 合 %
	數量	金 額	數量	金 額	數量	金 額		
大正五年	三本	六〇二・一四	一	—	—	—	六〇二・一四	二
昭和二年	一元	一、四九八・四二	九六・〇	二、八〇七・四〇	—	—	四、三〇五・八二	七
昭和三年	二	四八・〇〇	四五・八	一五三・六九	一	七五・四〇	六七・〇九	三
計	二四	二、五八・五五	一四一・八	二、九六一・〇九	—	七五・四〇	五、五五五・〇四	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭和三年	五、三六六・〇四	六
昭和四年	一〇九・〇〇	四
計	五、五五五・〇四	一〇〇

第三 瓦 斯

工事は昭和二年二月麴町三丁目二番地先に於ける瓦斯管移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、昭和五年三月準町七番地先より十二番地先に至る瓦斯管切廻工事を最終とし百十二件の工事を全部完了したり、而して之に要したる整理費は八千九百四十六圓三十三錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理
工事進捗状況

年 度	管 線 路		其 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
大正五年	三・八	三九・六	一・七	七五・三	一、〇九・六	三
昭和二年	三六・〇	五八五・三	三〇	三、一〇・二	七、一〇・四	九
昭和三年	五・六	六七・五	二〇	一一・九	七〇・五	八
昭和四年	四三・四	四八四・四	五〇〇	四、一〇・九	八、四六・三	一〇〇
計						

支拂状況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭和二年	一、四六四・六	六
昭和三年	七、〇九七・四	九
昭和四年	一六二・五	二
昭和五年	二二・八	三
計	八、四六六・三	一〇〇

第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は件數七十五件整理費二萬九千八圓二十四錢全部市負擔にして、大正十五年八月十五日東京電燈株式會社關係工作物の整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局十二件金額七千七百四十五圓四十二錢、市電氣局十六件金額五千二百二圓十錢、東京電燈株式會社三十三件金額一萬二千九百九十六圓三十七錢、東京瓦斯株式會社十四件金額五千七百六十四圓三十五錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第三節 假本理整

本地區に於ける假本整理工事は件數七十五件整理費二萬九千八圓二十四錢全部市負擔にして、大正十五年八月十五日東京電燈株式會社關係工作物の整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るときは市水道局十二件金額七千七百四十五圓四十二錢、市電氣局十六件金額五千二百二十圓十錢、東京電燈株式會社三十三件金額一萬二千九百九十六圓三十七錢、東京瓦斯株式會社十四件金額五千七百六十四圓三十五錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事種別

種別	水道		市電		東電		瓦斯		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
交通 支障	電柱		五二本	四八・八九	三六本	九、七六・八六			二八〇本	九、六五・七五
	管線路		一・五間	二五・七三					一・五間	一五・七三
其他	電柱		四所	六九・〇三					四所	六九・〇三
	管線路		二・七三間	二七・三三		九、一七・六六			二・七三間	一〇、三〇・五二
其他	電柱		一ヶ所	二五・五九	二六本	五〇・二三			二六本	五〇・二三
	管線路		七五・八三間	九二・八七	七九・二二間	六〇・六二	一、五八・〇五	七、六四・三五	七九・二二間	一八、〇五・二五
其他	電柱		一ヶ所	二五・五九	一ヶ所	六・六六			二ヶ所	二二・二六
	管線路		七、七四・三三	四〇・八・四三	一、二九・五二		五、七四・三五		三〇八本	一八、六七・七三
計	管線路	一、九六・四七	七、四五・四二	七五・三三	九三・六〇	七九・二二	六〇・六二	一、五八・〇五	四、三六・九	一八、〇五・二五
	電柱			五本	四八・八九	二五本	九、六七・〇八		三〇八本	一〇、一三・七九

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭 和 二 年	昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年
1,840.05 ^円	7,453.43	10,483.73	
六	二	六	三

第一 水道

工事は昭和二年六月一番町三十番地先より三十一番地先に至る水道鐵管移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、昭和五年六月上二番町四番地先より元園町一丁目五十番地先に至る水道鐵管移設工事を最終とし十二件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は七千七百四十五圓四十二錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

昭 和 五 年	計
九,147.01	29,008.24
三	100

年 度	管 線		路 額	歩 合 %
	數	量		
昭 和 二 年		四七五・四 ^間	二、八四・三 ^円	三
昭 和 三 年		1E0・0	七四八・六 ^円	一〇
昭 和 四 年		一、一〇八・四	三、七〇・三 ^円	四八
昭 和 五 年		一、九二・六	四〇一・四 ^円	五
計		一、九一六・四	七、四四七・四 ^円	100

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

支拂狀況

年 度	昭 和 二 年	昭 和 三 年	昭 和 四 年	昭 和 五 年	計	市 負 擔	步 合	%
						二、九〇九・〇三		三
						一八二・〇九		二
						四、四七・〇四		五
						七、七五・四三		一〇〇

第二電 氣

(イ) 市 電

工事は昭和二年八月元園町二丁目六番地先に於ける地中電纜堀下工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、昭和五年六月上二番町二十一番地先に於ける配電函移設工事を最終とし十六件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は五千二百二圓十錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	昭 和 二 年	電 柱		管 線		其 他		計	步 合 %
		數量	金 額	數量	金 額	數量	金 額		
	一〇本	二、四・四九	二七、五	二、九〇七・四	三	一三三・八七	三、〇六四・六〇	五	

支拂狀況

年 度	昭 和 四 年	昭 和 五 年	計	電 柱		管 線		其 他		計	步 合 %
				數量	金 額	數量	金 額	數量	金 額		
	四	一	五	四四・四〇	一五二・二	三、九八・六〇	二	六八・七四	一、〇三三・五九	二〇	
	三	一	四	三、五六・六	三、九八・六〇	一、〇三三・五九	一	一、一〇二・九一	五、二〇三・一〇	一〇〇	

工事進捗状況

年 度	電 柱		管 線		其 の 他		計	歩 合 %
	數量	金 額	數量	金 額	數量	金 額		
大正五年	八本	三七・五 ^円	—	—	—	—	三七・五 ^円	三
昭和二年	二四	二四七・七 ^二	四・〇	五二・二五	—	—	八九・九七	八
昭和三年	一〇	二八五・五	—	—	—	—	二八五・五	三
昭和四年	三〇	八、七七一・六	三三・二	九〇・三	—	—	八、九七・六二	五
昭和五年	四	二九〇〇	—	—	—	—	二九〇〇	一
計	二五	九、六七〇・八	七三・二	六〇三・六	—	—	一〇、二九六・七	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭和三年	一、二七・四 ^円	二
昭和四年	九、〇三・一五	八
昭和五年	三三・六	一
計	一〇、二九六・七	一〇〇

第三 瓦 斯

工事は昭和二年一月元園町一丁目四十番地先より同四十三番地先に至る瓦斯管移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、昭和五年四月俣町二十二番地先に於ける瓦斯管移設工事を最終とし十四件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は五千七百六十四圓三十五錢なり、其の工事竝支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

昭 和 計	昭 和 五 年	昭 和 四 年	九、〇三・一五	三、五・六	一〇、二九六・三七	九	一	八
-------------	------------------	------------------	---------	-------	-----------	---	---	---

第三 瓦 斯

工事は昭和二年一月元園町一丁目四十番地先より同四十三番地先に至る瓦斯管移設工事を最初としそ
れより逐次各種工事を施行し、昭和五年四月隼町二十二番地先に於ける瓦斯管移設工事を最終とし十四
件の工事を全部完了せり、而して之に要したる整理費は五千七百六十四圓三十五錢なり、其の工事並支
拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	管 線		歩 合 %	
	數	量		
大正十元五年		九三・〇 _圓	六七・六九 _圓	三
昭和二年		二六・四	一、四三・七七	二四
昭和四年		一、二二・八	三、五七・九九	六
昭和五年		五・八	一四七・九〇	三
計		一、五六・〇	五、七四・三五	一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔		歩 合 %
	市	負擔	
昭和二年		一、四九四・八三 _圓	二六
昭和三年		五九・八〇	九

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭和五年

計 三、七四九・七二
五、七四・三五

第三章 私有管線處理

本地區に於ける私有管線整理工事に關する申請書の受付は大正十四年七月十七日より之を開始し、昭和三年二月七日迄に全部の受付を了したり、而して工事は大正十五年五月十五日之に著手しそれより順次建物移轉の進捗に伴ひ各種工作物の整理を爲し、昭和四年四月二十七日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は四千六百五十九件金額七萬八千九百三十三圓にして、之を事業別に見るときは水道千五百二十八件金額二萬九千六百二十一圓八十二錢、市電百六十六件金額千三百六圓九十七錢、東電千六百九十六件金額一萬六千四百五十四圓二十一錢、瓦斯千二百六十六件金額三萬五千五百二十三圓四十錢、電話三件金額二十六圓六十錢なり、尙建物一棟當りの裝置數を見るに水道〇・八八栓、電燈五・三燈、瓦斯〇・五四個(計量器數)なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年度	工事狀況			支拂狀況		
	件數	金額	歩合%	國負擔	市負擔	合計
大正十四年	二六	四三四・二八	一	—	九・六〇	九・六〇

年度	件數	金額	歩合%	國負擔	市負擔	合計	歩合%
大正十五年	三〇九	五、三三〇・二	三	一五四・六九	五九〇・八五	七四五・五四	一
昭和元年	一、五七七	二六、〇五九・〇〇	三	—	—	—	—
昭和二年	七	一、二五四・八三	二	—	—	—	—
昭和三年	三	五三・九六	一	—	—	—	—
昭和四年	—	—	—	—	—	—	—
昭和五年	—	—	—	—	—	—	—
未濟	—	—	—	—	—	—	—

年度	件数		金額	歩合%	國負擔	市負擔	合計	歩合%
	件数	金額						
大正十四年	二六	四三四・一八	一	一	一	九・六〇	一	九・六〇

計	未濟		昭和五年		昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十五年	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
四、六五九	六、九三三・〇〇	一〇〇	一〇、四五五	一九、三五・六七	△	三、六四六	△	五、九一	△	六	四、六五九	七六、九三三・〇〇	一〇〇	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

備考 △印は再設費未支拂撤去費は支拂濟のもの。

前記の内事業者拂に屬するもの四千六百五十六件金額六萬九千五百八十六圓二十二錢にして、内國負擔千二十五件金額一萬六千八百八十三錢、市負擔三千六百三十一件金額五萬三千四百八十五圓三十九錢なり、尙現金補償に屬するもの(移設費を含む)九百九十一件金額九千三百四十六圓七十八錢にして、内國負擔二百十六件金額三千二百十四圓八十四錢、市負擔七百七十五件金額六千三百三十一圓九十四錢なり、其の支拂狀況を示せば左の如し。

種別	水道		市電		東電		瓦		斯		電話		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
國負擔	三三〇	五、九八・五一	二九	一八五・九	三三六	二、四三・六	三〇〇	七、七三・六五	—	—	—	—	一、〇三三	一、〇〇一・八三
市負擔	一、一九六	三、二六二・六三	一三七	九三〇・八四	一、三六〇	八、六七六・八〇	九三六	二、六五・二	—	—	—	—	三、六三三	五、四八五・三九
計	一、五二六	二六、二二・四	一六六	一〇、八〇・六	一、六九六	一〇、一〇八・四	一、二三六	三九、〇七三・七	—	—	—	—	四、六六六	六、四八七・二二

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

年 度	件 數	金 額	歩 合 %	國 負 擔		市 負 擔		合 計	
				件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額
大正十四年	八	一五・〇九	一	—	—	—	—	—	—
大正十五年	九	一九・二四・六〇	三	—	—	—	—	—	—
昭和元年	九	一九・二四・六〇	三	—	—	—	—	—	—

年 度	件 數	金 額	歩 合 %	國 負 擔		市 負 擔		合 計	
				件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額
昭和二年	五七	九、八八・七一	三	—	—	—	—	—	—
昭和三年	二六	五〇・〇四	二	—	—	—	—	—	—
昭和四年	—	一九・三六	—	—	—	—	—	—	—
昭和五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
未 済	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一、五八	二九、三二・八一	一〇〇	三三〇	六、三九・三〇	一、二九	三三、三二・五五	一、五八	二九、三二・八一

備考 △印は再設費未支拂(撤去費は支拂済)のもの。

第二 電 氣

(イ) 市 電

大正十五年二月十二日より工事施行に關する申請書の受付を開始し、昭和二年七月十四日迄に全部の受付を了せり、工事は大正十五年三月十八日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し、昭和三年四月二十五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は百六十六件金額千三百六圓九十七錢にして、内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの十八件金額百九十四圓十四錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 状 況			支 拂 状 況		合 計	
	件 數	金 額	歩 合 %	件 數	金 額	件 數	金 額
大正十四年	—	七・七七	—	—	—	—	—

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

年度	工事状況		支拂		合計	歩合%
	件数	金額	件数	金額		
大正十五年	一〇八	八四九・六六	七	五五・〇九	四〇	三六・〇九
昭和二年	五	四三・四〇	一四	二〇・一八	七九	六四・〇六
昭和三年	二	一五・七四	一	七・七七	七	五四・二六
昭和四年	一	—	三	五五・〇九	四〇	三二・五六
計	一六六	一,三〇六・七六	二七	一,〇七六・七六	一六六	一,三〇六・七六
					一〇〇	一〇〇

(ロ) 東 電

大正十四年十一月十九日より工事施行に關する申請書の受付を開始し昭和三年二月七日迄に全部の受付を了せり、工事は大正十四年十二月二日之に著手し建物移轉に伴ひ逐次施行し、昭和四年四月二十七日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は千六百九十六件金額一萬六千四百五十四圓二十一錢にして、内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの六百六十一件金額五千六百三十三圓七十三錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年度	工事状況		支拂		合計	歩合%
	件数	金額	件数	金額		
大正十四年	九	八七・三二	—	—	—	—
大正十五年	一,〇二	一〇,六八一・五五	二	一五・六一	二	一五・六一
昭和元年	—	—	—	—	—	—
昭和二年	五八	五,四三三・五九	六五	六,〇三〇・七四	八五	八,三三三・二六
計	一,〇八七	一〇,九一〇・八六	六七	六,〇四六・七四	一,一五四	一〇,九一〇・八六
					一〇〇	一〇〇

年度	工事状況		支拂		合計	歩合%
	件数	金額	件数	金額		
昭和三年	一七	二六・九五	七	九四・四四	二九	三六・三六
昭和四年	一	九・七〇	五	七八・六八	二九	二,八二・〇七
昭和五年	—	—	六	四八五・四八	一四	一,七三・七五
未済	—	—	—	—	—	—
計	一六	一六,四四三・二二	一八	一,三〇三・〇七	一六六	一六,四四三・二二
					一〇〇	一〇〇

年度	件数	金額	件数	金額	件数	金額
大正十四年	九	八七・三三	一	—	—	—
大正十五年	一、〇二	一〇、六八一・五五	—	—	—	—
昭和元年	—	—	—	—	—	—
昭和二年	五五八	五、四三三・五九	三	—	—	—

年度	件数	金額	歩合%	件数	金額	歩合%
昭和三年	七	九四・四四	—	二九三	二、五八〇・二〇	三六
昭和四年	一	九・七〇	—	二三三	二、〇四三・三三	二九
昭和五年	—	—	—	一四八	一、二四六・二七	一八
未済	—	—	—	—	—	—
計	一、六九六	一六、四四四・二二	100	三三六	四、五三一・一四	二八

備考 △印は再設費未支拂撤去費は支拂済のもの。

第三 瓦 斯

大正十四年十二月一日より工事施行に關する申請書の受付を開始し昭和二年十一月十日迄に全部の受付を了せり、工事は大正十四年十二月八日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し昭和四年四月十五日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件数は千二百六十六件金額三萬千五百二十三圓四十二錢にして、内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの百九十三件金額二千百三十五圓六十三錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年度	工事狀況			支拂狀況		
	件数	金額	歩合%	國負擔	市負擔	合計
大正十四年	七	一七四・三〇	—	—	—	—
大正十五年	八三	二〇、四六七・八〇	—	—	—	—
昭和元年	—	—	—	—	—	—
計	九〇	二〇、六四一・一〇	—	—	—	—

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭和二 年	昭和三 年	昭和四 年	昭和五 年	未 済	計
四七	一九	一	一	一	一、二六六
一〇、三三・三〇	四七三・一〇	二四・九〇	一	一	三、一五三・四〇
三	二	一	一	一	一〇〇
一六六	三六	七	一五	一	三三〇
六、五九・五〇	九二・三〇	一七四・三〇	四三・三〇	一	八、二七・〇〇
△	△	△	△	△	△
七五	一四	一九	四五	三	九三
一八、七〇・八二	二、六三・三三	五四・七一	一、一七・四九	二七・一五	三、一〇〇・四〇
△	△	△	△	△	△
一、〇五	一四二	二六	六〇	三	一、二六三
二五、三〇・三三	三、五四・六一	六九・〇二	一、五〇・七九	一七・一五	三、一五三・四〇
八	二	二	五	一	一〇〇

備考 △印は再設費未支拂(撤去費は支拂済)のもの。

第四電 話

私設電話にして移設費を個人に補償したるもの三件之が補償費二十六圓六十錢なり、其の補償狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 状 況		支 拂 状 況	
	件 數	金 額	件 數	金 額
大正十四 年	一	九・六〇 ^円	一	九・六〇 ^円
大正十五 年	二	一七・〇〇	二	一七・〇〇
昭和五年 計	三	二六・六〇	三	二六・六〇
		歩合%		歩合%
		三		三

第四章 道路占用

本地區に於ける占用事務は大正十五年十二月十日之を開始し昭和三年二月二十八日閉止の豫定なりしが、建物移轉並道路工事の關係により昭和四年九月十五日之を閉止せり、而して同年十二月二十三日迄に臺帳の作成を了し市土木局に引繼を爲せり。

本地區に於ては昭和二年一月十三日市水道局、市電氣局及東京電燈株式會社に對し一括許可又は承認を爲したるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲したり、而して右に對する分割許可

大正十四年	一	九・六〇	三	九・六〇	一	九・六〇	三
大正十五年	二	一七・〇〇	一〇〇	一七・〇〇	二	一七・〇〇	一〇〇
計	三	二六・六〇	一〇〇	二六・六〇	三	二六・六〇	一〇〇

第四章 道路占用

本地區に於ける占用事務は大正十五年十二月十日之を開始し昭和三年二月二十八日閉止の豫定なりしが、建物移轉竝道路工事の關係により昭和四年九月十五日之を閉止せり、而して同年十二月二十三日迄に臺帳の作成を了し市土木局に引繼を爲せり。

本地區に於ては昭和二年一月十三日市水道局、市電氣局及東京電燈株式會社に對し一括許可又は承認を爲したるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲したり、而して右に對する分割許可又は承認は昭和二年一月十三日市水道局に承認せるを最初としそれより逐次各事業者に許可又は承認を爲し、昭和四年九月十日市水道局、東京電燈株式會社及遞信省に許可又は承認せるを最終とし、要求工事五百四十九件、非要求工事七百六十六件の許可又は承認を爲したり、其の狀況を示せば左の如し。

事業者	一括占用許可 承認年月日	分割許可		可承認		計數
		最初年月日	最終年月日	要求工事 件	非要求工事 件	
市水道局	昭和二、一、三	昭和二、一、三	昭和四、九、二〇	二〇〇	二〇五	四〇五
市電氣局	昭和二、一、三	昭和二、三、八	昭和四、九、二	二四	二三	四七
市保健局	昭和二、四、九			一	一	二
東京電燈株式會社	昭和二、一、三	昭和二、二、〇	昭和四、九、一〇	四二	四二	八四
東京瓦斯株式會社	昭和二、一、四	昭和二、一、六	昭和四、九、七	二四七	四九四	七四一
遞信省		昭和三、一、九	昭和四、九、一〇	七	二	九

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭和二年		昭和三年		昭和四年		合計	
市	省	市	省	市	省	市	省
東京瓦斯株式會社	六	一三六・〇〇〇	五七・九〇〇	一四一・五八〇	四九・〇〇〇	二九二・五八〇	一〇六・九〇〇
市水道局	一七	九七〇・八五〇	四三九・〇〇〇	一、五八・五〇〇	二〇四・七三〇	一、七八五・二三〇	一、七〇〇・五〇〇
市電氣局	一六	一、五八・六八五	五七・八八七	一、五八・六八五	五七・八八七	三、一七・五七二	三、一七・五七二
計							
東京電燈株式會社	六	一三六・〇〇〇	五七・九〇〇	一四一・五八〇	四九・〇〇〇	二九二・五八〇	一〇六・九〇〇
市水道局	一七	九七〇・八五〇	四三九・〇〇〇	一、五八・五〇〇	二〇四・七三〇	一、七八五・二三〇	一、七〇〇・五〇〇
市電氣局	一六	一、五八・六八五	五七・八八七	一、五八・六八五	五七・八八七	三、一七・五七二	三、一七・五七二
計							
東京電燈株式會社	六	一三六・〇〇〇	五七・九〇〇	一四一・五八〇	四九・〇〇〇	二九二・五八〇	一〇六・九〇〇
市水道局	一七	九七〇・八五〇	四三九・〇〇〇	一、五八・五〇〇	二〇四・七三〇	一、七八五・二三〇	一、七〇〇・五〇〇
市電氣局	一六	一、五八・六八五	五七・八八七	一、五八・六八五	五七・八八七	三、一七・五七二	三、一七・五七二
計							

昭和二年		昭和三年		昭和四年		合計	
市	省	市	省	市	省	市	省
東京電燈株式會社	二七	四〇五・五八〇	一八・九九〇	三、八七・二〇〇	一、三二・七〇〇	四、二四・七八〇	一、五〇・六九〇
東京瓦斯株式會社	六	一三六・〇〇〇	五七・九〇〇	一四一・五八〇	四九・〇〇〇	二九二・五八〇	一〇六・九〇〇
市水道局	一七	九七〇・八五〇	四三九・〇〇〇	一、五八・五〇〇	二〇四・七三〇	一、七八五・二三〇	一、七〇〇・五〇〇
市電氣局	一六	一、五八・六八五	五七・八八七	一、五八・六八五	五七・八八七	三、一七・五七二	三、一七・五七二
計							
東京電燈株式會社	二七	四〇五・五八〇	一八・九九〇	三、八七・二〇〇	一、三二・七〇〇	四、二四・七八〇	一、五〇・六九〇
東京瓦斯株式會社	六	一三六・〇〇〇	五七・九〇〇	一四一・五八〇	四九・〇〇〇	二九二・五八〇	一〇六・九〇〇
市水道局	一七	九七〇・八五〇	四三九・〇〇〇	一、五八・五〇〇	二〇四・七三〇	一、七八五・二三〇	一、七〇〇・五〇〇
市電氣局	一六	一、五八・六八五	五七・八八七	一、五八・六八五	五七・八八七	三、一七・五七二	三、一七・五七二
計							
東京電燈株式會社	二七	四〇五・五八〇	一八・九九〇	三、八七・二〇〇	一、三二・七〇〇	四、二四・七八〇	一、五〇・六九〇
東京瓦斯株式會社	六	一三六・〇〇〇	五七・九〇〇	一四一・五八〇	四九・〇〇〇	二九二・五八〇	一〇六・九〇〇
市水道局	一七	九七〇・八五〇	四三九・〇〇〇	一、五八・五〇〇	二〇四・七三〇	一、七八五・二三〇	一、七〇〇・五〇〇
市電氣局	一六	一、五八・六八五	五七・八八七	一、五八・六八五	五七・八八七	三、一七・五七二	三、一七・五七二
計							
東京電燈株式會社	二七	四〇五・五八〇	一八・九九〇	三、八七・二〇〇	一、三二・七〇〇	四、二四・七八〇	一、五〇・六九〇
東京瓦斯株式會社	六	一三六・〇〇〇	五七・九〇〇	一四一・五八〇	四九・〇〇〇	二九二・五八〇	一〇六・九〇〇
市水道局	一七	九七〇・八五〇	四三九・〇〇〇	一、五八・五〇〇	二〇四・七三〇	一、七八五・二三〇	一、七〇〇・五〇〇
市電氣局	一六	一、五八・六八五	五七・八八七	一、五八・六八五	五七・八八七	三、一七・五七二	三、一七・五七二
計							

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

遞信省	計
七	一、九二〇、三三〇
三、六五、七四〇	一、八六、九五〇
一、八六、九五〇	—
—	—
三、四〇	—
五、六、二七六	—
三、〇一、七〇七	—
七	—
三、六五、七四〇	—
一、八六、九五〇	—
四、〇四、七四〇	—

一〇二

前記要求工事五百四十九件の内道路後修を要したるもの二百五十二件金額七千七百九十八圓三十錢ありたり、其の支拂狀況を示せば左の如し。

事業者	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		支拂未済		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
市水道局	九	一、六三〇、〇〇〇	一	六三、一九九	—	—	—	—	三、六四〇、八八〇
市電氣局	—	—	—	四、四〇、三五〇	—	—	—	—	七、四五、三三〇
東京電燈株式會社	一	八、七〇〇	八	三、三四、三〇〇	—	—	—	—	四、三二、七九〇
東京瓦斯株式會社	二	四〇七、六〇〇	一	一、七九、七九〇	—	—	—	—	二、九八〇、三三〇
計	一二	二、〇四七、六〇〇	九	一、〇八七、一三九	—	—	—	—	三、一三四、〇三九

第二 非要求工事

本地區に於ける非要求工事は七百六十六件其の延長八千三百五十四間八八三、掘鑿面坪二千七百六十六坪四八八にして、之を事業者別に見るときは市水道局二百五十五件其の延長二千三百二十四間九三、掘鑿面坪八百四十八坪六九三、市電氣局二十三件其の延長千八百四十二間二三、掘鑿面坪五百八十五坪一六、東京電燈株式會社四十二件其の延長百六十六間〇五、掘鑿面坪七十五坪一六九、東京瓦斯株式會社四百

九十四件其の延長三千九百三十四間八三三、掘鑿面坪千二百十六坪〇三六、遞信省二件其の延長八十二間八四、掘鑿面坪四十一坪四三なり、尙之を類別すれば大掘鑿六十四件其の延長六千七百八十八間七九、掘鑿面坪二千二百九十二坪二三二、小掘鑿七百二件其の延長千五百六十二間〇九三、掘鑿面坪四百七十四坪二五六なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計
		件數	延長	件數	延長	
—	—	—	—	—	—	—

本地區に於ける非要求工事は七百六十六件其の延長八千三百五十間八八三、掘鑿面坪二千七百六十六坪四八八にして、之を事業者別に見るときは市水道局二百五件其の延長二千三百二十四間九三、掘鑿面坪八百四十八坪六九三、市電氣局二十三件其の延長千八百四十二間二三、掘鑿面坪五百八十五坪一六、東京電燈株式會社四十二件其の延長百六十六間〇五、掘鑿面坪七十五坪一六九、東京瓦斯株式會社四百

九十四件其の延長三千九百三十四間八三三、掘鑿面坪千二百十六坪〇三六、遞信省二件其の延長八十二間八四、掘鑿面坪四十一坪四三なり、尙之を類別すれば大掘鑿六十四件其の延長六千七百八十八間七九、掘鑿面坪二千二百九十二坪二三二、小掘鑿七百二件其の延長千五百六十二間〇九三、掘鑿面坪四百七十四坪二五六なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計	
		件數	延長	件數	延長	件數	延長
大正五年	市水道局	三	一五・六〇〇	—	—	三	一五・六〇〇
	市電氣局	二	九・八五〇	—	—	二	九・八五〇
計		五	二五・四五〇	—	—	五	二五・四五〇
昭和元年	市水道局	—	—	六	一四・六六〇	六	一四・六六〇
	市電氣局	五	一〇・五二〇	—	—	五	一〇・五二〇
計		—	—	六	一四・六六〇	六	一四・六六〇
昭和二年	東京電燈株式會社	二	九・二五〇	二	四・〇〇〇	四	一三・二五〇
	東京瓦斯株式會社	七	二二・五〇〇	二	四・〇〇〇	九	二六・五〇〇
遞信省	一	六九・六七〇	—	—	一	六九・六七〇	
計		一〇	一二一・〇二〇	四	八・〇〇〇	一四	一二九・〇二〇
昭和三年	市水道局	一	六・四〇〇	六	一四・九一〇	七	二一・三一〇
	市電氣局	—	—	四	一四・九五〇	四	一四・九五〇
東京電燈株式會社	二	三六・四〇〇	一	一四・〇〇〇	三	五〇・四〇〇	
計		三	四二・八〇〇	一〇	三三・三六〇	一三	七六・一六〇

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第三 道路臺帳

道路臺帳は昭和四年十二月二十三日之が作成を了し市土木局に引繼を爲したり、其の臺帳記入工作物は電柱五百七十四本、管線路一萬九千六百九十四間七九五にして、之を類別すれば新設せるもの電柱三百五本、管線路一萬六千九百九十七間二三五、撤去せるもの電柱二百六十九本、管線路七千二十七間五九、

埋殺せるもの千九百六十九間九七なり、其の事業別數量を示せば左の如し。

種別	新設	撤去	埋殺	計
水道	三、九五・九〇〇 ^間	一、七九・二〇〇 ^間	一七・四〇〇 ^間	五、四六・五〇〇 ^間
電柱	三〇五 ^本	一六九 ^本	—	一三六 ^本
電市	一、七五・二九〇 ^間	二、〇三・四〇〇 ^間	—	三、八二・五九〇 ^間
電東	一七〇・二六〇 ^間	一四七・三五〇 ^間	—	三二七・六一〇 ^間
電纜	二九・四四〇 ^間	二六・一四〇 ^間	—	五三・五八〇 ^間
電東	四、四八〇・四五 ^間	二、八一・五〇〇 ^間	一、七六・九〇〇 ^間	九、〇七八・八五 ^間
電斯	三〇五 ^本	二六九 ^本	—	五七四 ^本
電柱	一〇、六九七・三五 ^間	七、〇三九・五九〇 ^間	一、九六九・九七〇 ^間	一五、六九七・七五 ^間
計				

第一地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

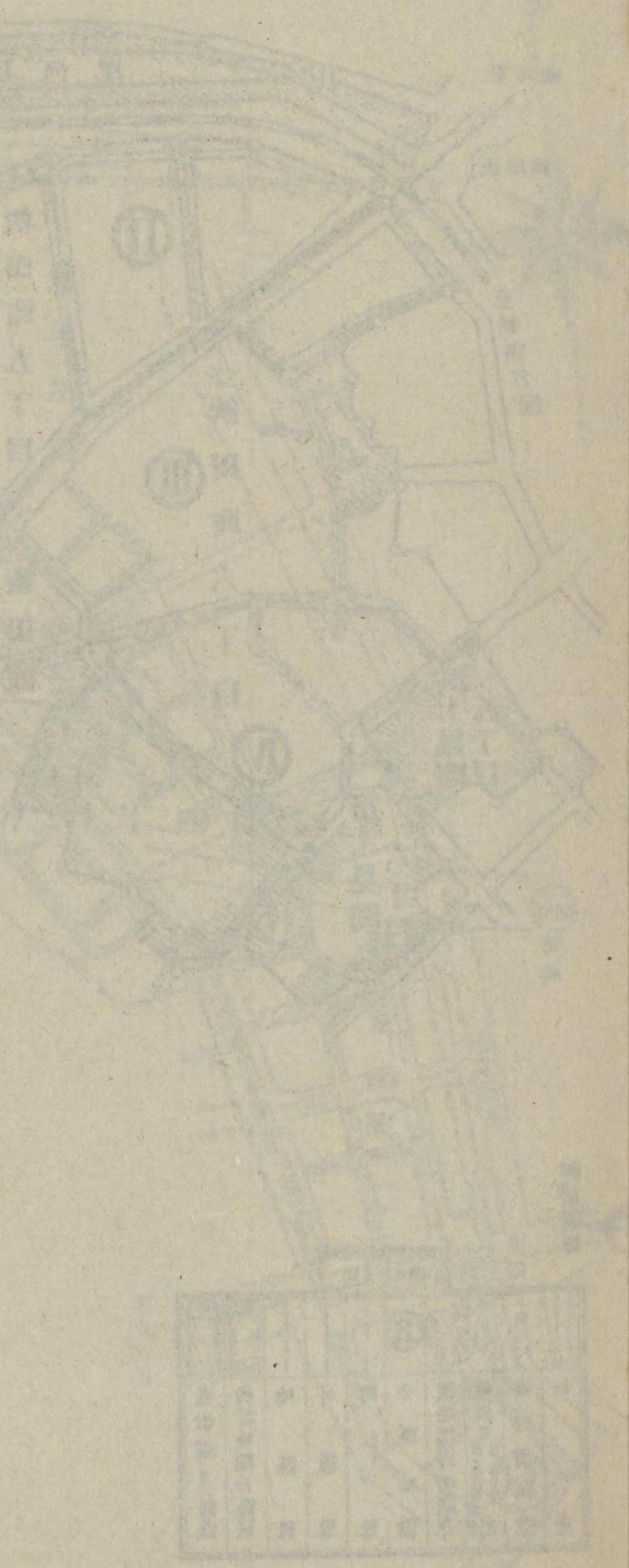
TABLE I
 SUMMARY OF THE DATA OBTAINED FROM THE EXPERIMENTAL INVESTIGATION OF THE
 EFFECT OF THE CONCENTRATION OF THE SOLUTION ON THE RATE OF
 REACTION OF THE HYDROLYSIS OF THE ESTER OF THE
 ACID

Time (min)	Concentration of the solution (M)		Rate of reaction (M/min)
	Initial	Final	
0	0.0100	0.0100	0.0000
10	0.0100	0.0095	0.0005
20	0.0100	0.0090	0.0010
30	0.0100	0.0085	0.0015
40	0.0100	0.0080	0.0020
50	0.0100	0.0075	0.0025
60	0.0100	0.0070	0.0030
70	0.0100	0.0065	0.0035
80	0.0100	0.0060	0.0040
90	0.0100	0.0055	0.0045
100	0.0100	0.0050	0.0050
110	0.0100	0.0045	0.0055
120	0.0100	0.0040	0.0060
130	0.0100	0.0035	0.0065
140	0.0100	0.0030	0.0070
150	0.0100	0.0025	0.0075
160	0.0100	0.0020	0.0080
170	0.0100	0.0015	0.0085
180	0.0100	0.0010	0.0090
190	0.0100	0.0005	0.0095
200	0.0100	0.0000	0.0100

第 二 地 區

河漢區鎮圖

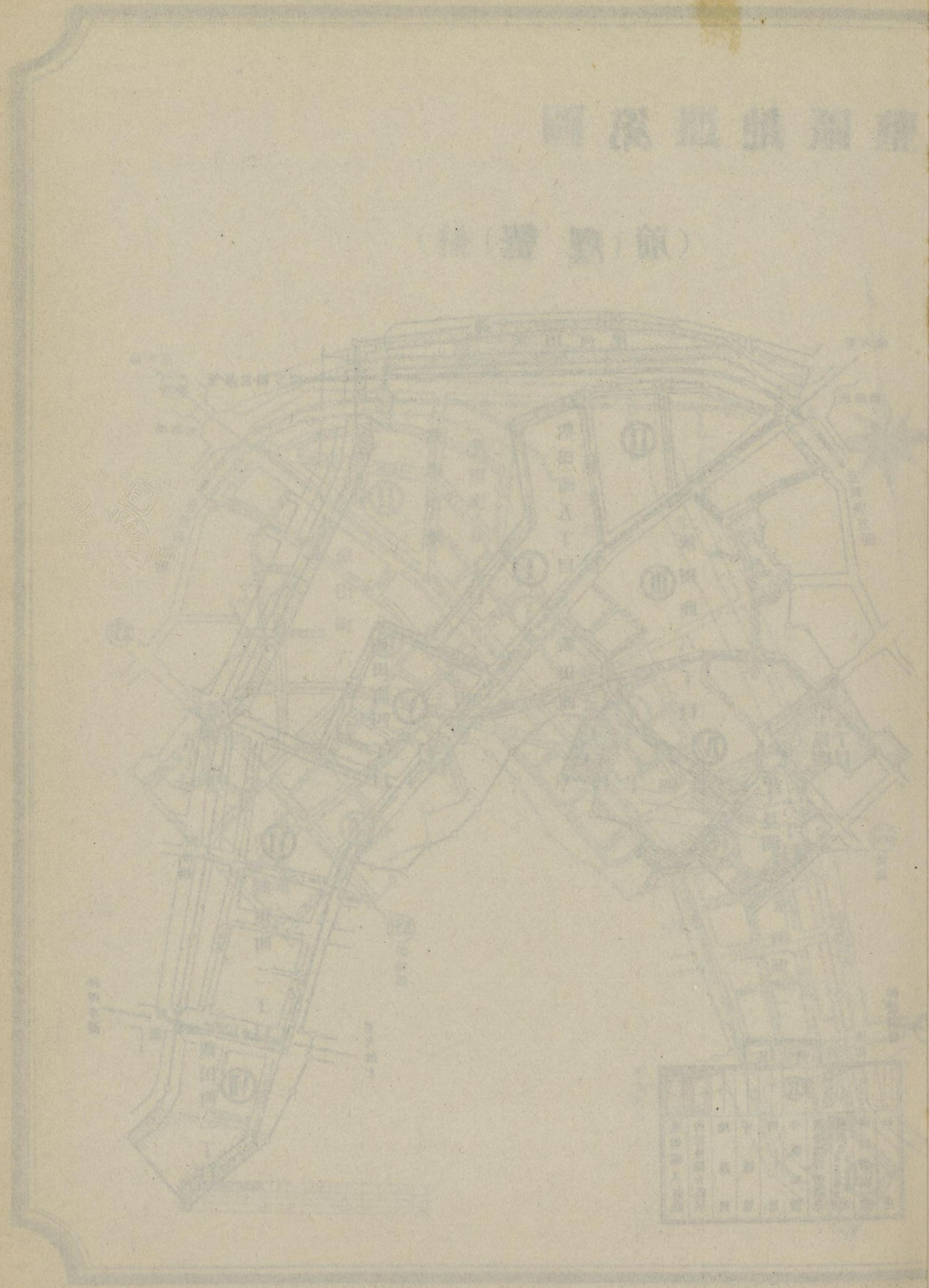
(圖)



漢二區圖

續編城鎮圖

(鎮) (鎮) (鎮)

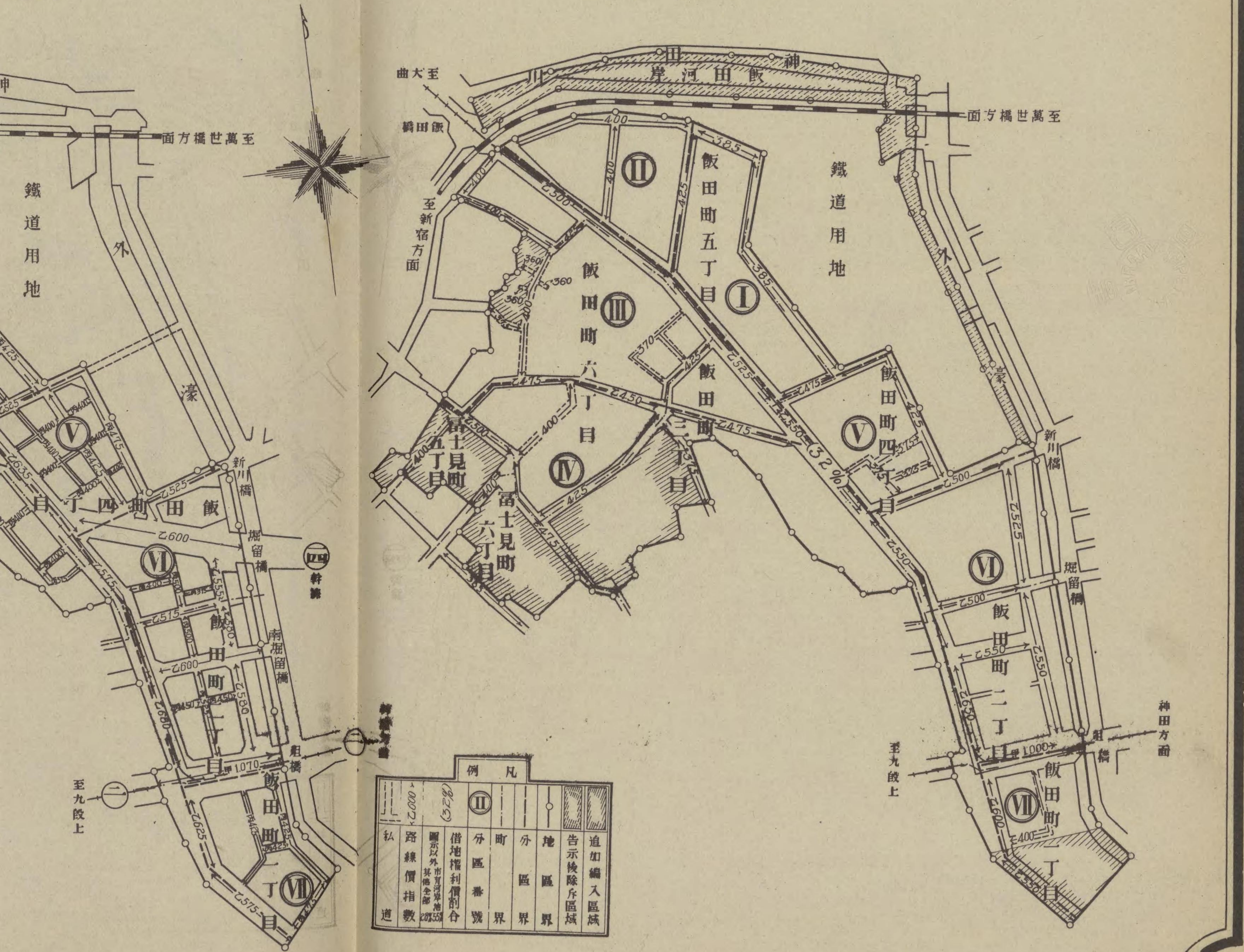


一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十
三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十

圖况概後前理整區地二第

(前理整)

整)



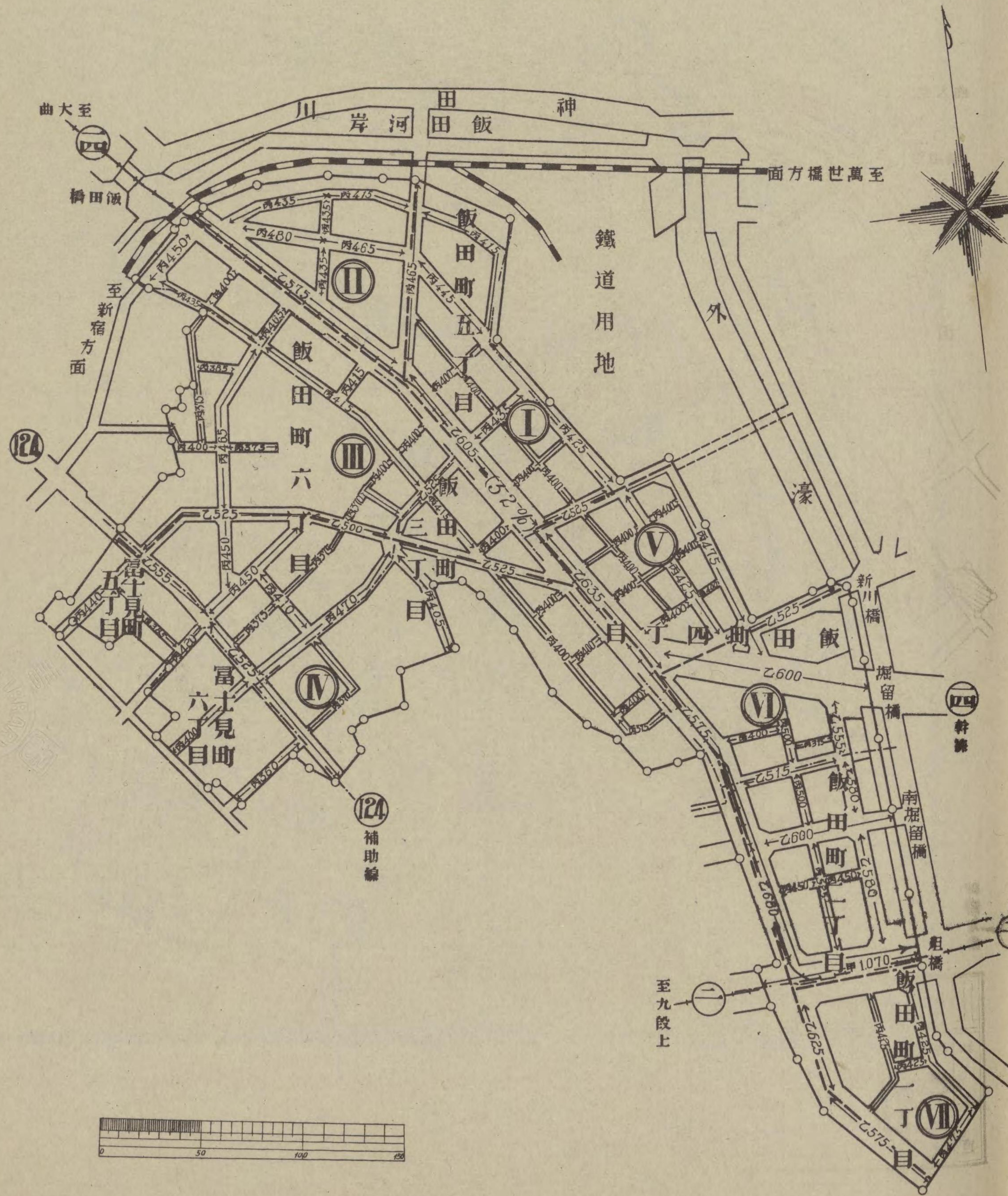
例凡

Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ
借地權利價割合	分區番號	分區界	地界	告示後除斥區域	追加編入區域
圖示以外市町村地價全部	路線價指數	道			

第二地區整理前後概況圖

(後理整)

(前理)

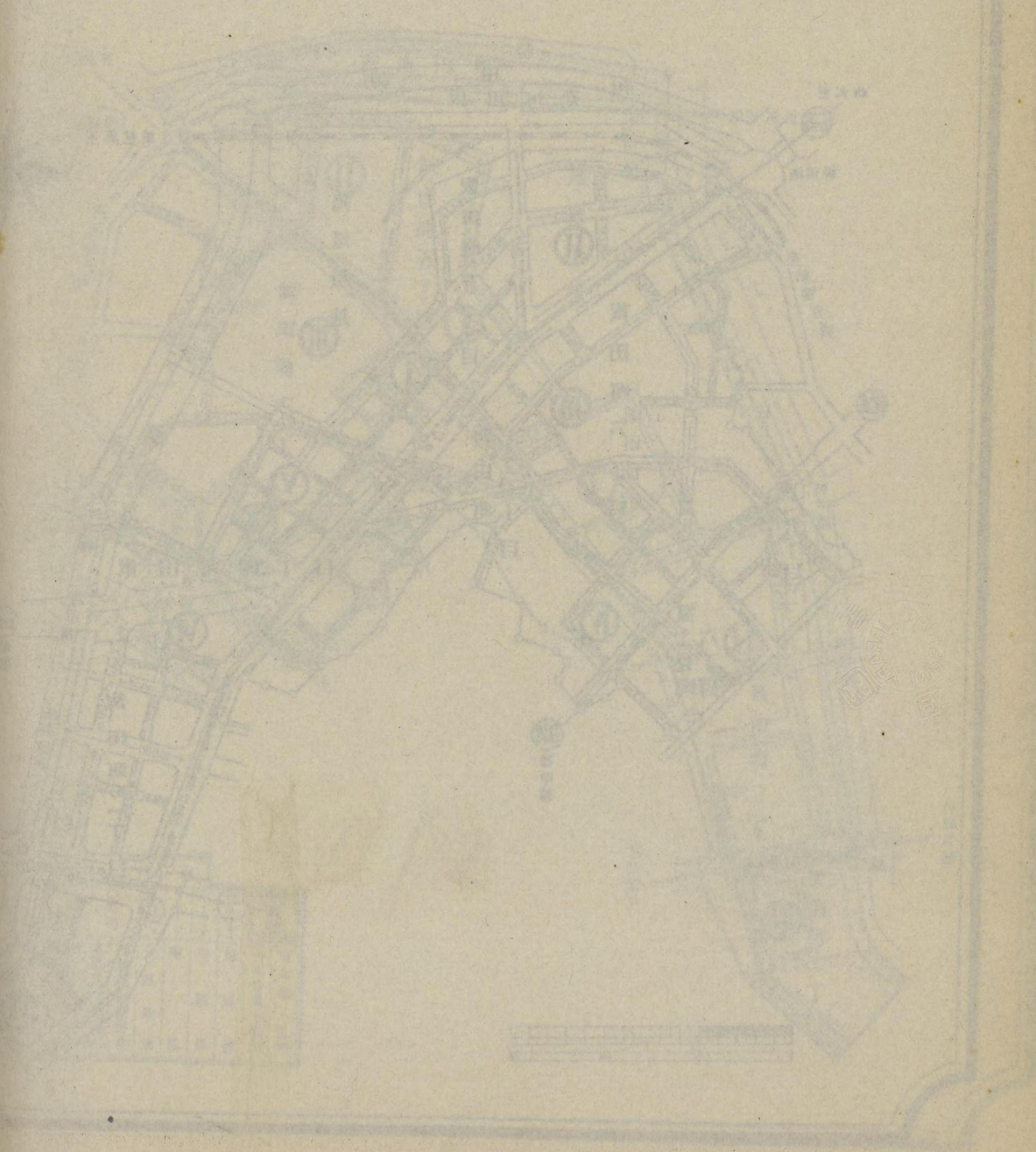


例凡

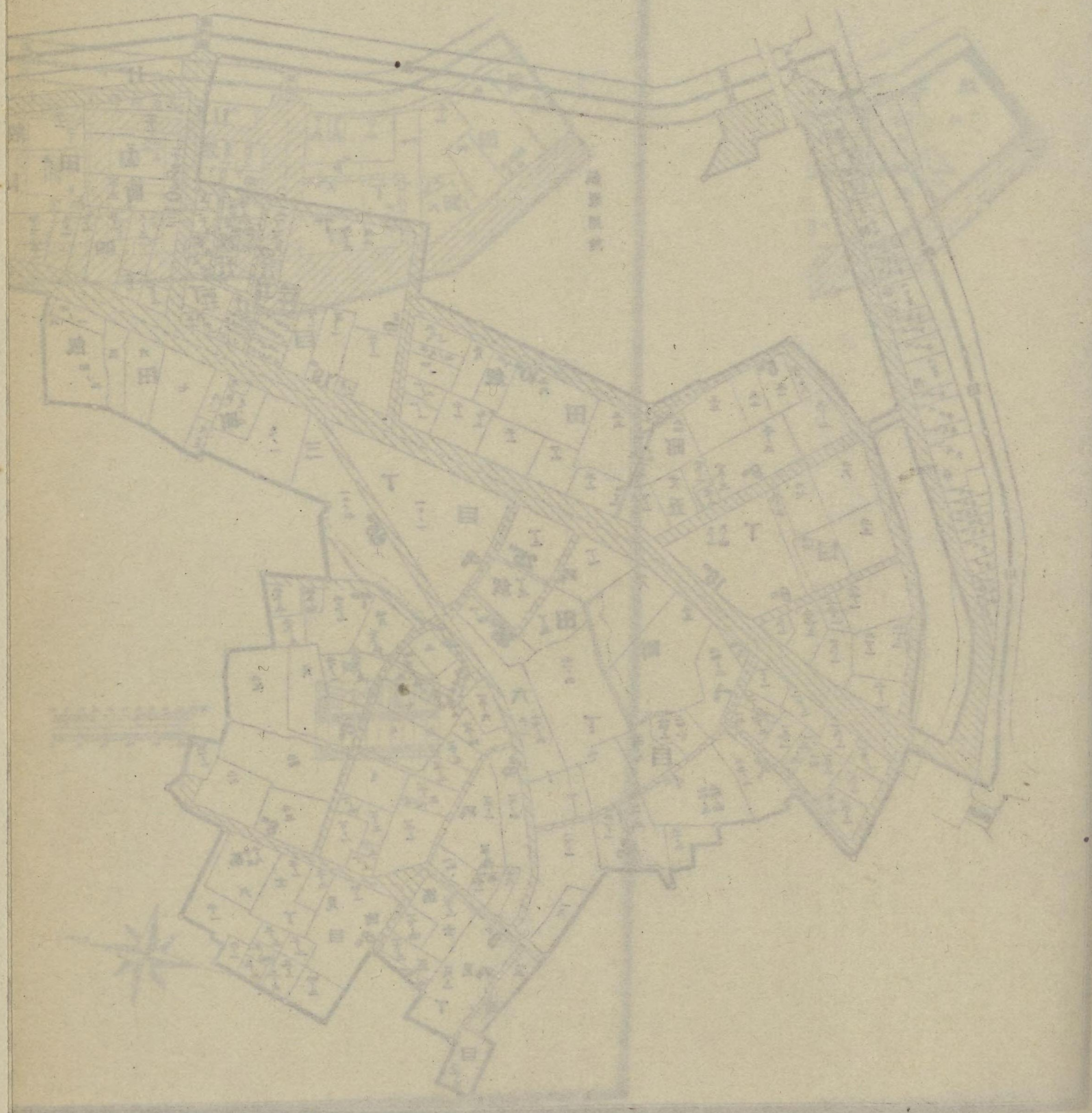
私	路	借	分	分	地	告	追
道	線	地	區	區	區	示	加
	價	權	界	界	界	檢	編
	指	利	號	號	號	除	入
	數	創				斥	區
		合				區	域

湖光園地圖

(湖光園)

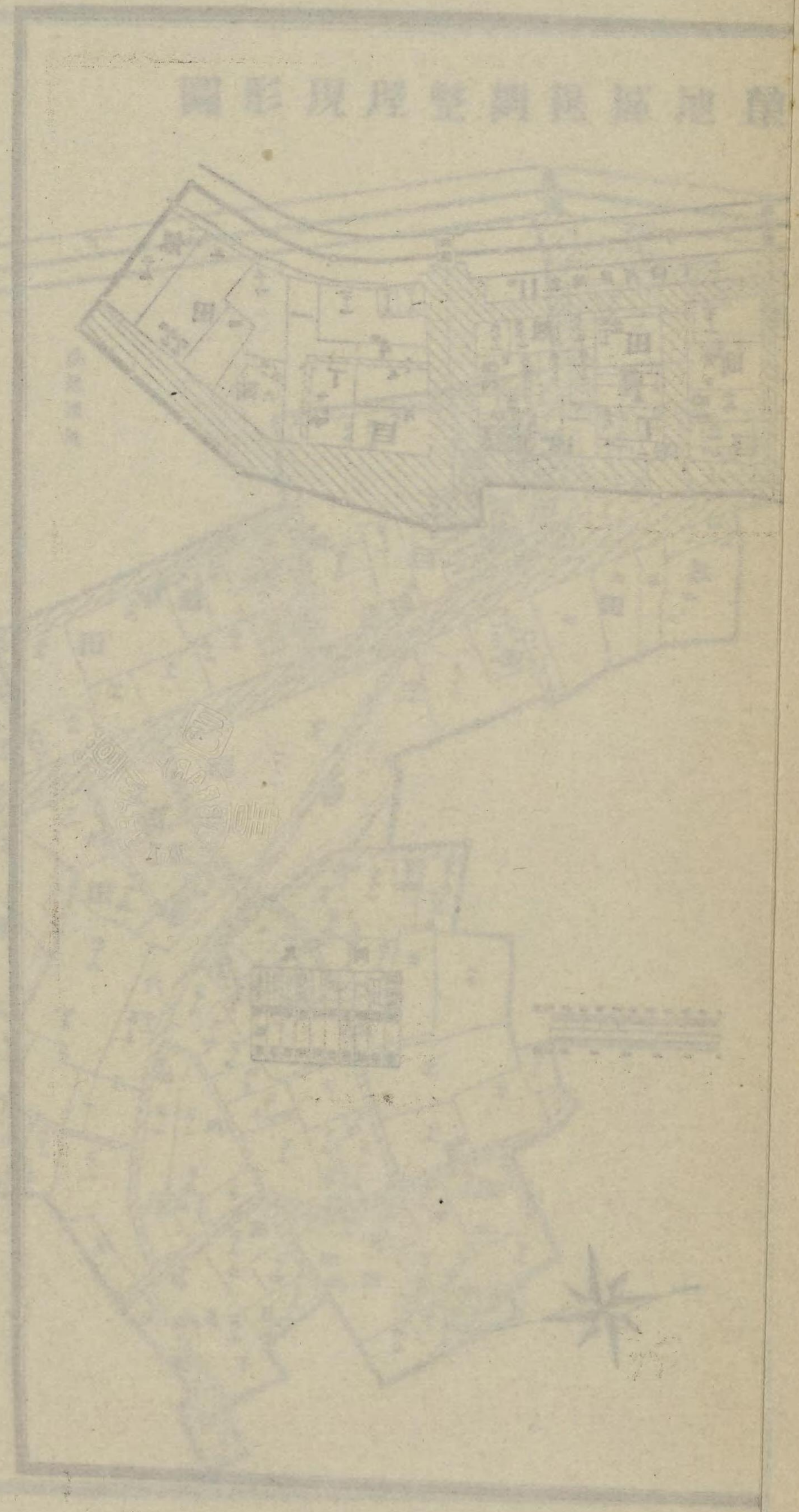
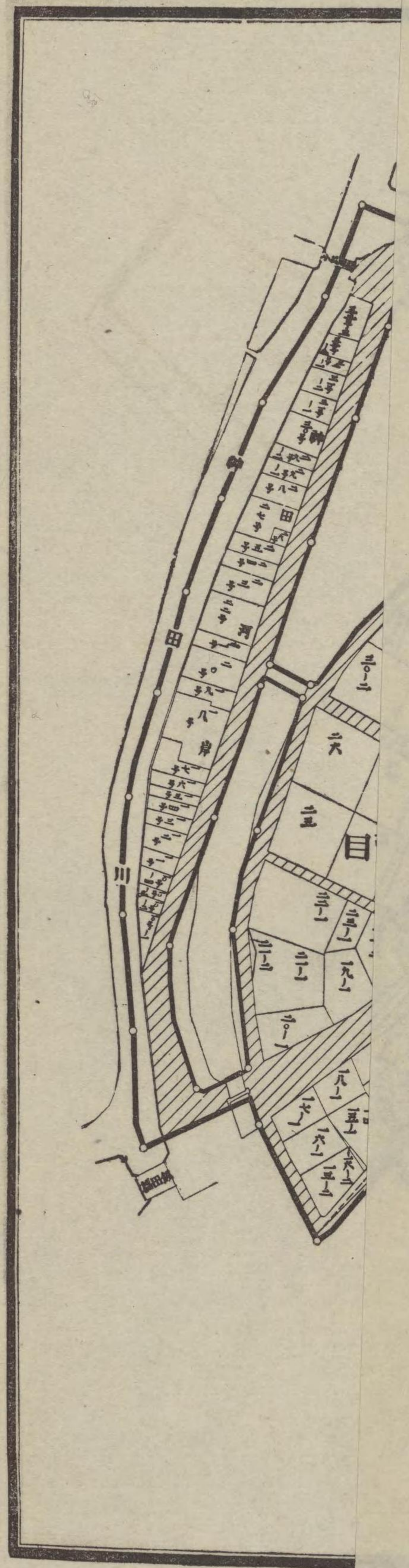
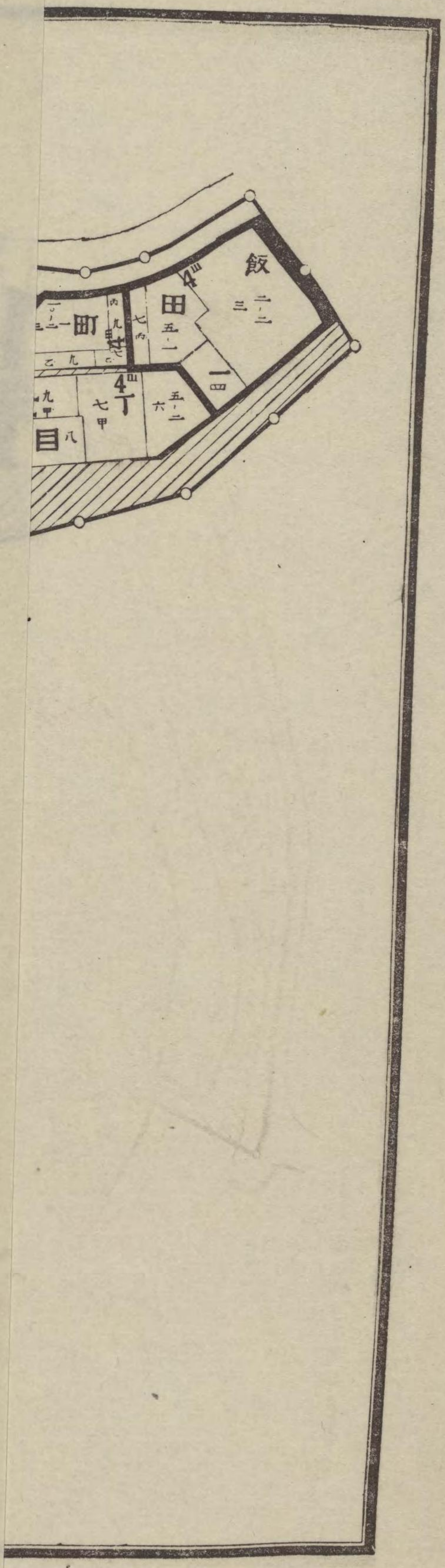


圖形城邑基圖原加

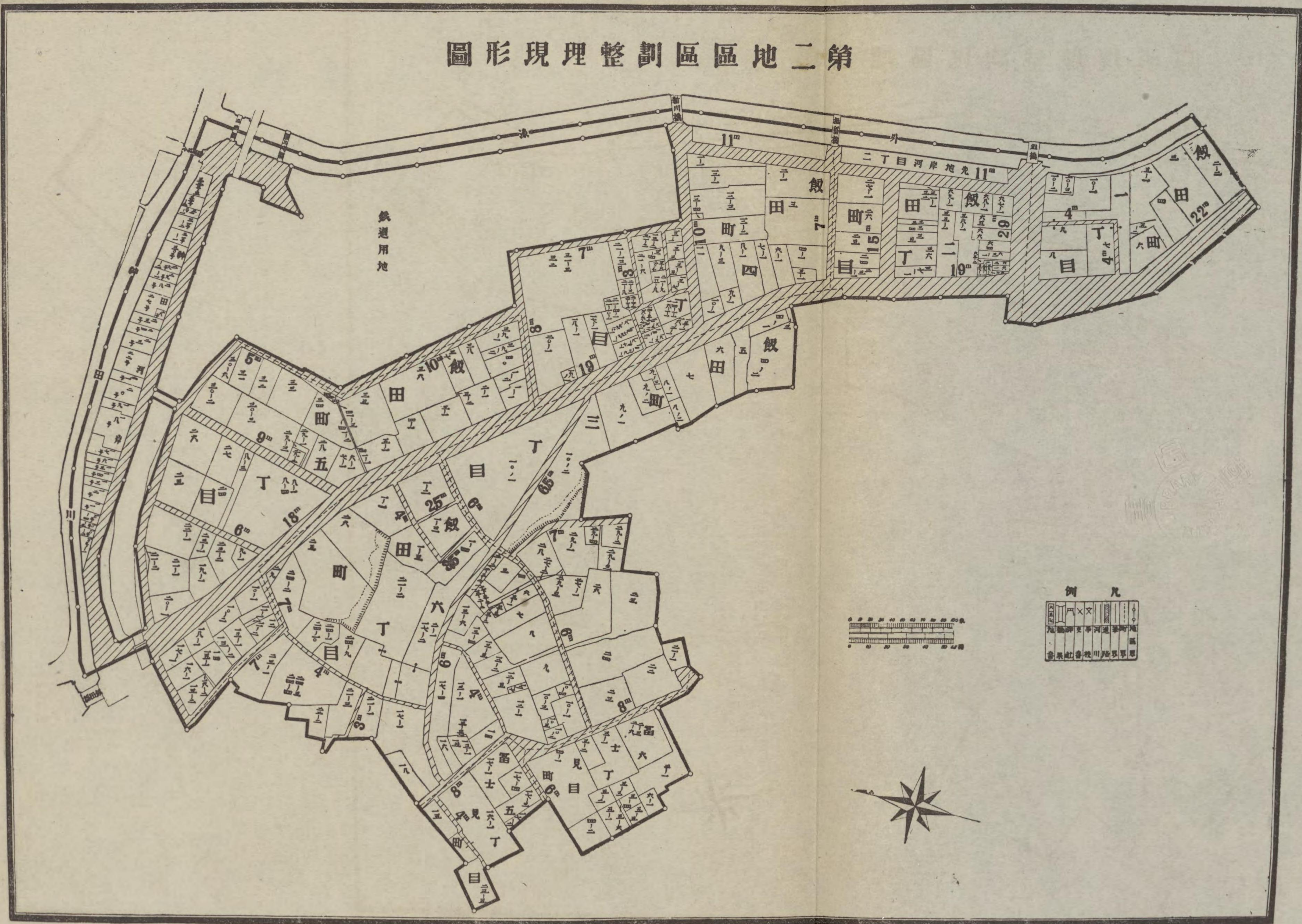
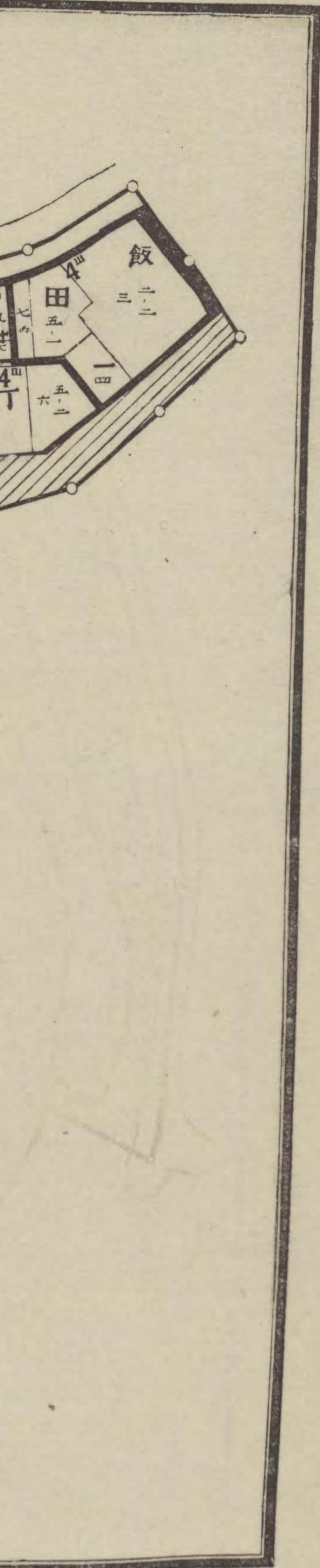


城邑基圖





圖形現理整劃區區地二第

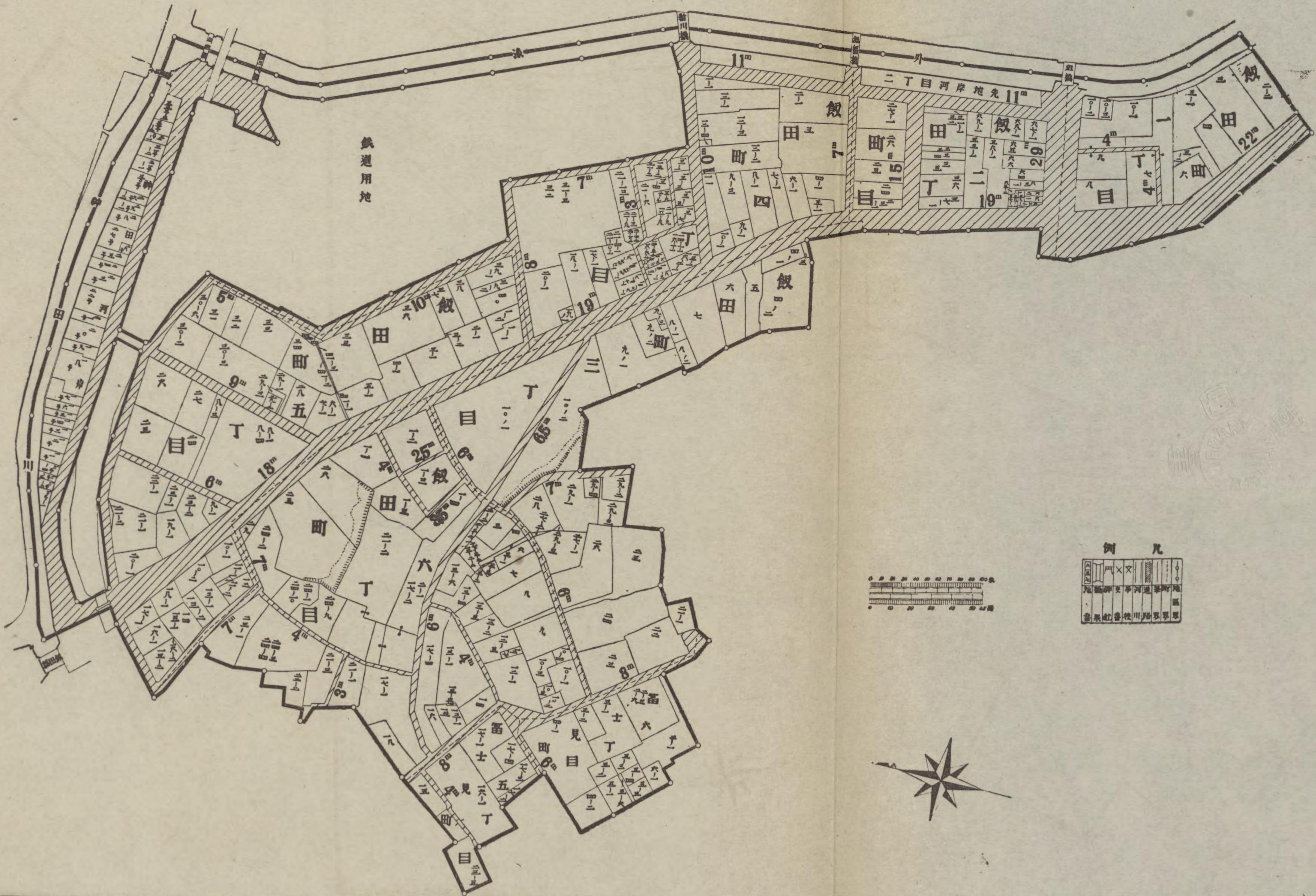


例凡

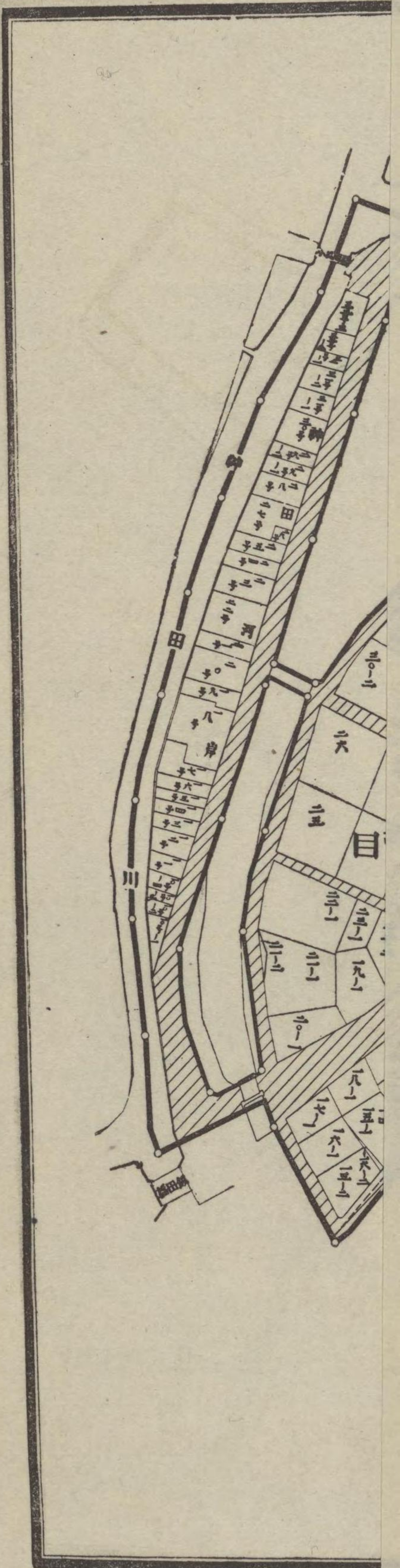
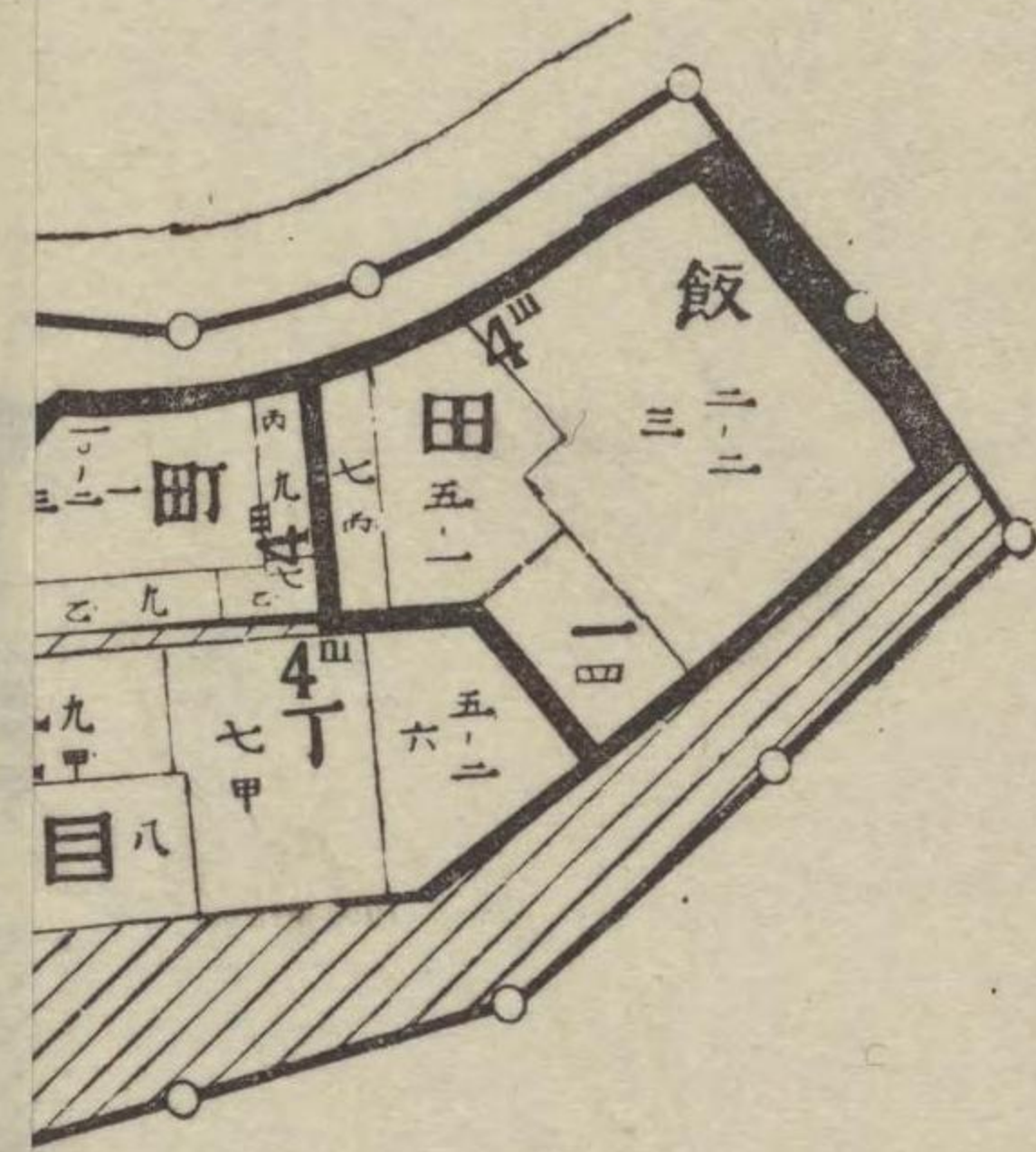
丁	文	區	町	田	飯
...



圖形現理整劃區區地二第

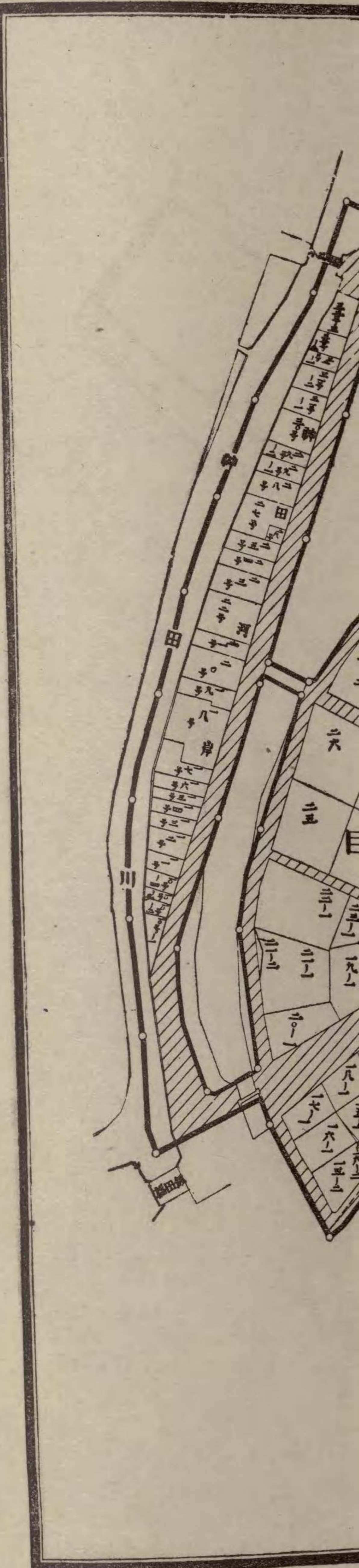
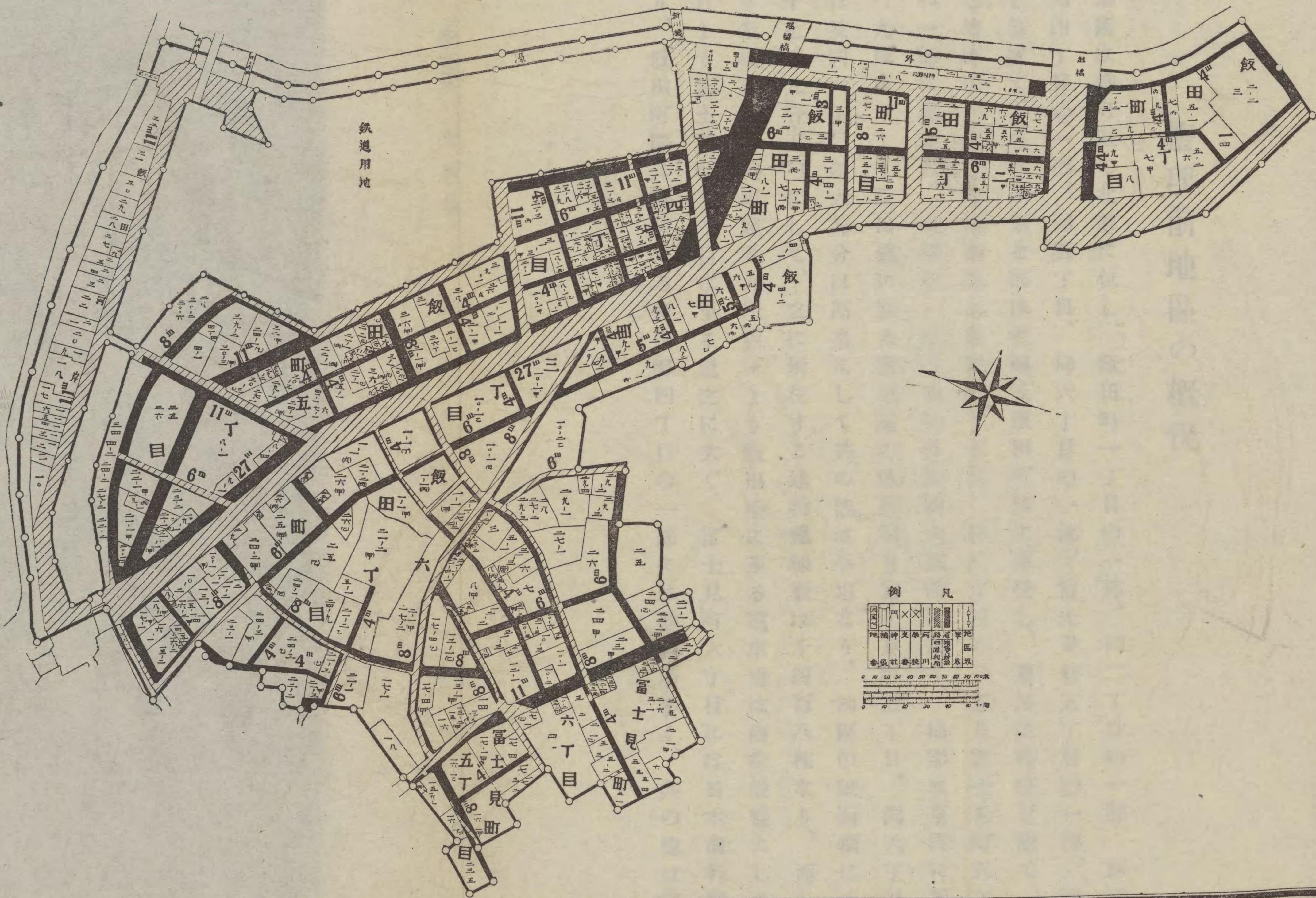


第一圖 地換區位圖



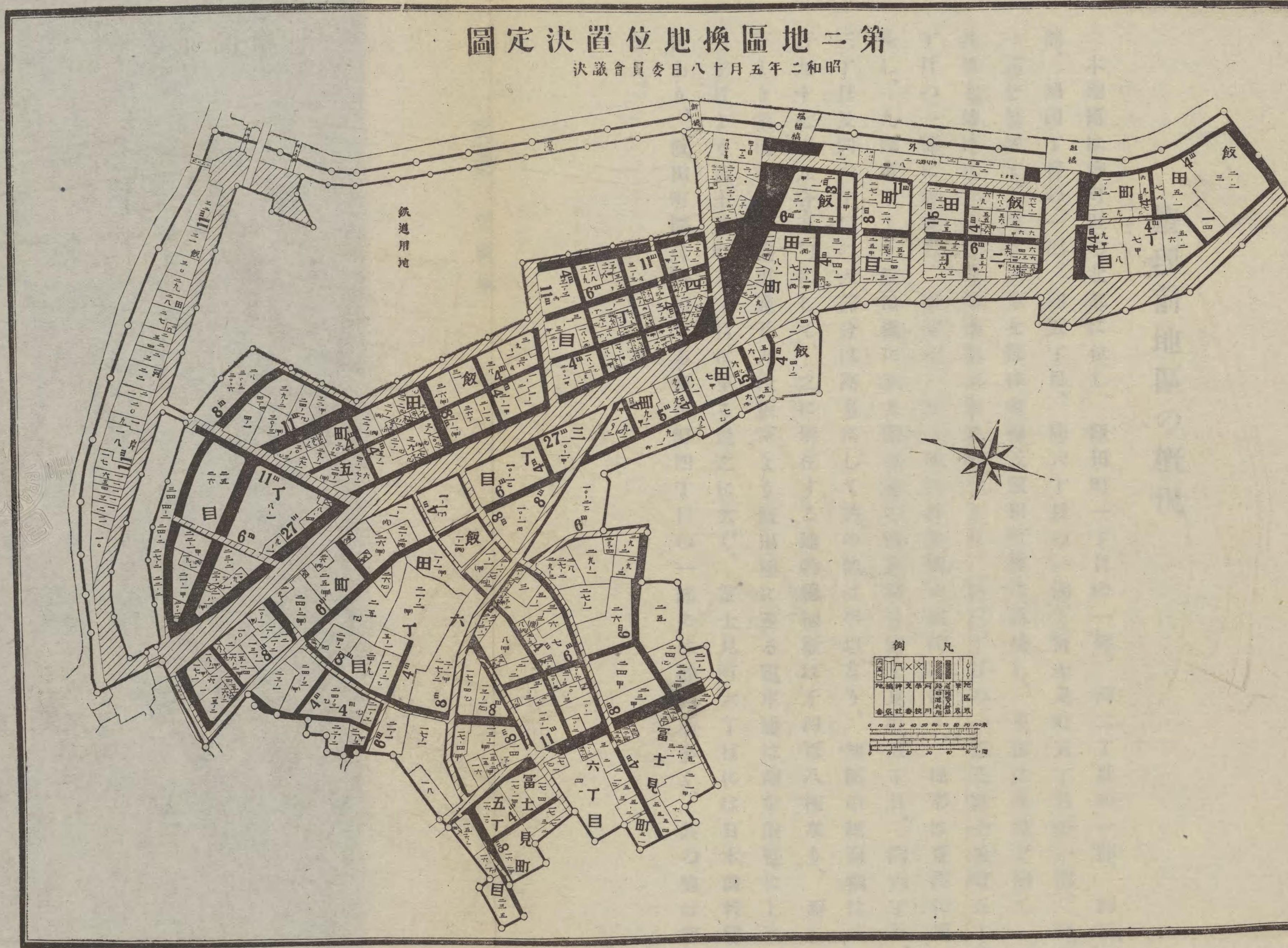
第二地區換地位置決定圖

昭和二年五月十八日委員會議決



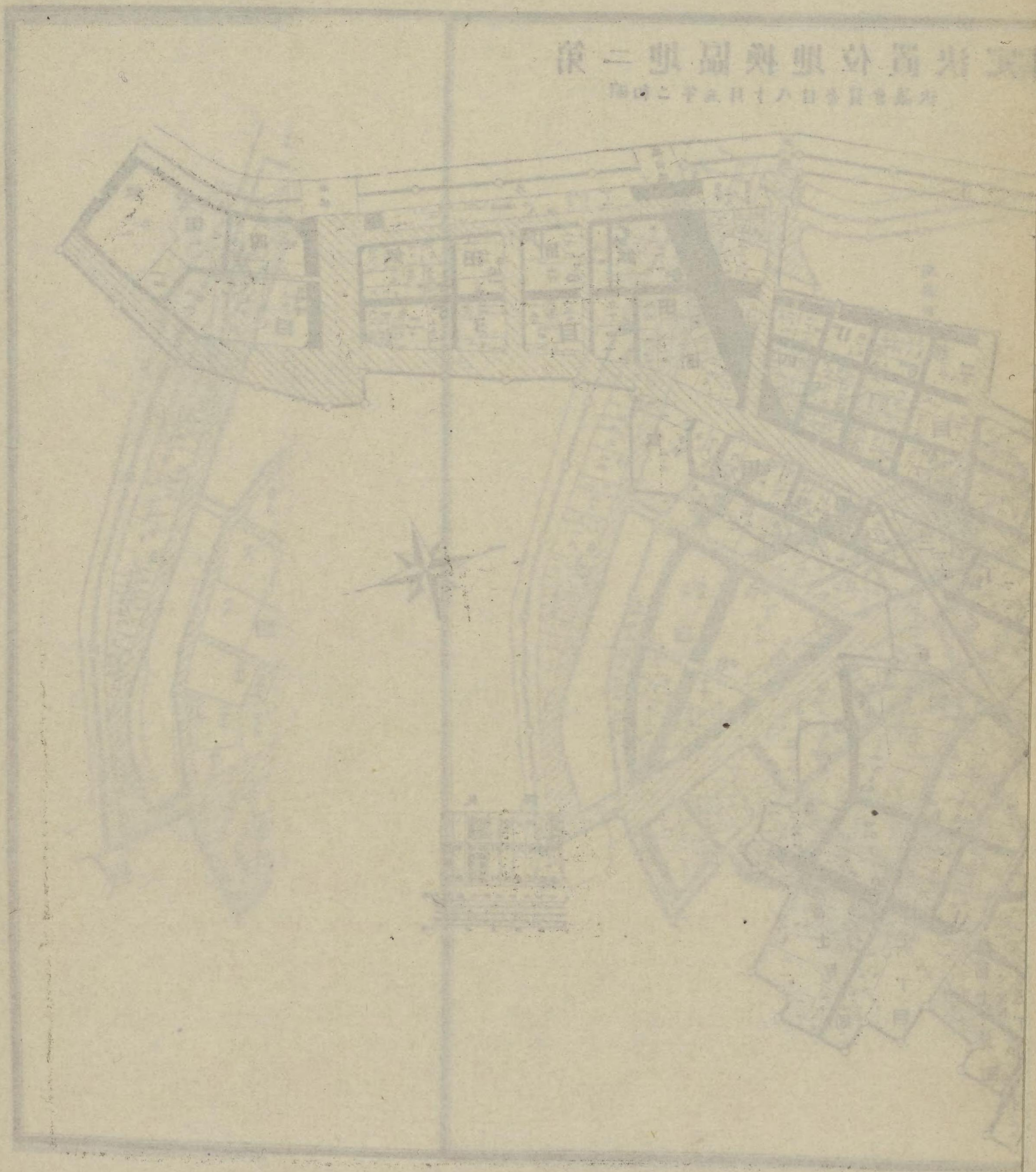
第二地區換地位置決定圖

昭和二年五月十八日委員會決議



飯田町一丁目

昭和二十一年八月十八日



整理前地区の概況

本地区は麴町區の北部に位し、飯田町一丁目の一部、同二丁目の一部、同三丁目の一部、同四丁目の一部、同五丁目、同六丁目の一部、富士見町五丁目の一部、同六丁目、東部は外濠を隔て、第五地區

整理前地區の概況

本地區は麴町區の北部に位し、飯田町一丁目の一部、同二丁目の一部、同三丁目の一部、同四丁目の一部、同五丁目、同六丁目の一部、富士見町五丁目の一部、同六丁目の一部を包括す、北部及東北部は省線及飯田町驛に隣接し、東部は外濠を隔て、第五地區及第七地區に、西部及西南部は飯田町二丁目、同三丁目の一部及富士見町五丁目、同六丁目の一部に連接し、南部の一端は地區外佛國大使館に接す、地形は東西に短く南北に長し、九段坂下より飯田橋に至る電車通の西部即ち富士見町五丁目、同六丁目、飯田町三丁目及同六丁目の大部分は高臺にして其の他は平坦なり、地區の總面積は八萬七千四百九十七坪九合五勺にして、之に所在する建物總棟數は千四百八棟なり、而して九段坂下より組橋に至る電車通及九段坂下より飯田橋に至る電車通は商業殷盛にして、飯田町三丁目より富士見町五丁目に至る通之に次ぐ、富士見町六丁目には日本齒科醫學專門學校あり、飯田町驛に隣接する飯田町四丁目の一部には砂利商多く、其の他は概ね住宅地なり。

甲 整地

第一章 土地區劃整理委員會

第一節 委員

第一 土地區劃整理委員及同補闕委員の選舉

第二地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各十八人にして、其の選舉を大正十三年十一月二十八日麴町區役所に於て執行したるに、何れも左記の適當選せり。

一 土地區劃整理委員

土地所有者の部

工藤角三郎

杉崎六吉

石山靜輔

借地權者の部

阿久津喜兵衛

安西久次郎

石濱寅吉

中村徳次郎

笹田政治

國友暢

岸他丑

本吉正雄

關野廣恭

大坪藤朔

前田幸造

遠藤亮太郎

山本初雄

齋藤三郎

小林幸太郎

二 同上補闕委員

土地所有者の部

塚原佐吉

小堀鍊之助

昆田文治郎

借地權者の部

吉井宗親

關川重雄

森井啓之助

宮本央

大橋正雄

山中顯三

伊藤新四郎

堀川彌太郎

福田壽二

松島誠明

諸井勝太郎

内田友藏

福田壽二

松島誠明

中山孝吉

青井深

青井深

阿久津 喜兵衛
安西久次郎
石濱 寅吉
國友 暢
岸 他 丑
本吉 正雄
關野 廣 恭
齋藤 三郎
小林 幸太郎

二 同上補闕委員

土地所有者の部

塚原 佐吉
小堀 鍊之助
昆田 文治郎
借地権者の部
吉井 宗親
關川 重雄
鈴木 鳴平
森井 啓之助
宮本 央
大橋 正雄
堀川 彌太郎
松島 誠明
福田 壽二

第二 議長及副議長の選舉並其の異動

大正十三年十二月二十日麴町區役所に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長山本初雄、議長及副議長の選舉を執行したるに、何れも左の通常選したり。

議長 阿久津喜兵衛
副議長 山本初雄
工藤角三郎副議長を辭任したるに因り、大正十四年三月二十八日土地區劃整理委員會に於て、議長阿久津喜兵衛、副議長の選舉を執行したるに左の通常選したり。

第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。
一 土地所有者選出委員遠藤亮太郎辭任したるに因り、大正十四年二月二十日同補闕委員塚原佐吉補充せらる。

二 土地所有者選出委員中村徳次郎死亡したるに因り、昭和三年六月二日同補闕委員森井啓之助補充

第二地區 甲 整地

せらる。

三 土地所有者選出委員山本初雄辭任したるに因り、昭和三年七月十七日同補闕委員大橋正雄補充せらる。

第二節 諮問及答申

一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は大正十四年五月十日の土地臺帳面積に依らむとす、但し四月三十日限東京市役所へ出願したるものにして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

備考 土地面積訂正を東京市役所に出願せむとするときは該願書に實測圖を添付し隣地主の同意を得て、市役所より調査の際は隣地主の立會を要す、但し臺帳面積との差百分の一以下は之を訂正せず。

右大正十四年三月二十八日諮問

委員會二回開催

同年十一月十三日修正決議の上答申

議事要綱

本件は提案當日隣接燒失地の地區追加編入に關する件及飯田町二丁目より同四丁目河岸に亘る砂利置場廢止に關する件に付意見百出し、之れが解決を見る迄一切の議事を中止するの決議を爲したり、然るに其の後此の希望認容せられたる爲大正十四年十一月十三日提案に係る諮問第四號と共に一括審議し、即日土地臺帳面積決定期日を大正十五年一月二十日に、面積誤謬訂正出願期日を大正十五年一月十日に何れも修正決議せり。

二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年三月二十八日諮問

委員會二十二回 協議會十四回 特別委員會十回開催

大正十五年二月十日より昭和二年五月十八日に至る間十一回に修正決議の上昭和二年三月三十日及同年五月十八日の二回に答申

本件は提案當日隣接焼失地の地區追加編入に關する件及飯田町二丁目より同四丁目河岸に亘る砂利置場廢止に關する件に付意見百出し、之れが解決を見る迄一切の議事を中止するの決議を爲したり、然るに其の後此の希望認容せられたる爲大正十四年十一月十三日提案に係る諮問第四號と共に一括審議し、即日土地臺帳面積決定期日を大正十五年一月二十日に、面積誤謬訂正出願期日を大正十五年一月十日に何れも修正決議せり。

二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年三月二十八日諮問

委員會二十二回 協議會十四回 特別委員會十回開催

大正十五年二月十日より昭和二年五月十八日に至る間十一回に修正決議の上昭和二年三月三十日及同年五月十八日の二回に答申

議事要綱

本案の審議は砂利置場撤廢問題及地區追加編入問題の爲大に遅延し、大正十四年十一月十三日諮問第三號追加編入地域の換地位置決定に關する件の提案に當り右二案を併せて研究し原案を修正決議せり、而して本諮問案以後の委員會審議に際しては追加編入地域住民の意嚮を聴取する爲五名の協議員を選出し、各諮問案に對する協議會のみに參加せしむるの方法を採りたり。

三 諮問第三號 追加編入地域の換地位置決定に關する件 (飯田町一丁目、同三丁目、同六丁目、富士見町五丁目及同六丁目の各一部)

大正十四年十一月十三日諮問

委員會其他開會度數諮問第二號に同じ

昭和二年三月三十日修正決議の上答申

議事要綱

本案の追加編入區域は當初本地區に編入せられざりしが、土地區劃整理委員會の希望に依り調査の結果之を追加編入するに至りしものにして、之が換地位置決定案は全地區の位置諮問案と共に慎重審議の上一部修正の上決議せり (第二章整理前土地の狀況参照)

四 諮問第四號 追加編入地域整理前土地面積決定期日に關する件 (同上)

第二地區 甲 整地

第二地區追加編入地域の換地配當の標準たる従前の土地面積は大正十四年十二月二十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し十二月十日限東京市役所へ出願したるものにして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとす。

備考 土地面積訂正を東京市役所に出願せむとするものは該願書に實測圖を添付し隣地主の同意を得て、市役所より調査の際は隣地主の立會を要す、但し臺帳面積との差百分の一以下は之を訂正せず。

右大正十四年十一月十三日諮問

同日修正決議の上答申

議事要綱

本案は諮問第一號と合併審議したるが土地臺帳面積決定期日を大正十五年一月二十日に、面積誤謬訂正出願期日を同年一月十日に何れも修正の上決議せり。

五 諮問第五號 一部換地面積決定に関する件

(飯田町四丁目の一部)

大正十五年二月十八日諮問

同日原案可決の上答申

六 諮問第六號 整理前路線價指數並土地各筆坪當指數に関する件

大正十五年五月三日諮問

委員會一回 協議會一回開催

昭和四年六月十八日撤回

議事要綱

本案は諮問第二十一號土地各筆清算に關する件を提出するに當り、其の内容を爲すの故を以て當局に於て之を撤回せり。

七 諮問第七號 一部換地面積決定に関する件

(飯田町二丁目、同四丁目各一部)

大正十五年七月二十日諮問

委員會二回開催

大正十五年五月三日諮問
委員會一回 協議會一回開催
昭和四年六月十八日撤回

議事要綱

本案は諮問第二十一號土地各筆清算に關する件を提出するに當り、其の内容を爲すの故を以て當局に於て之を撤回せり。

七 諮問第七號 一部換地面積決定に關する件 (飯田町二丁目、同四丁目各一部)

大正十五年七月二十日諮問
委員會二回開催

昭和二年三月三十日修正決議の上答申

八 諮問第八號 一部換地面積決定に關する件 (飯田町一丁目、同二丁目及同四丁目の各一部)

大正十五年十一月三十日諮問
委員會三回開催

昭和二年三月三十日修正決議の上答申

九 諮問第九號 一部換地面積決定に關する件 (飯田町六丁目的一部)

昭和元年十二月二十八日諮問
同日原案可決の上答申

一〇 諮問第十號 一部換地面積決定に關する件 (飯田町三丁目、同四丁目及同六丁目の各一部)

昭和二年一月三十一日諮問
同日修正決議の上答申

一一 諮問第十一號 一部換地位位置變更並面積決定に關する件 (飯田町五丁目)

昭和二年二月二十四日諮問

委員會二回 協議會二回開催

昭和二年二月二十七日修正決議の上答申

一一二 諮問第十二號 一部換地位置變更竝面積決定に関する件 (飯田町三丁目の一部
及富士見町五丁目)

昭和二年二月二十七日諮問

委員會三回 協議會二回開催

昭和二年三月三十日修正決議の上答申

一一三 諮問第十三號 一部換地位置變更竝面積決定に関する件 (富士見町六丁目)

昭和二年三月二十二日諮問

委員會二回 協議會二回開催

昭和二年三月三十日修正決議の上答申

一一四 諮問第十四號 一部換地位置變更竝面積決定に関する件 (飯田町三丁目
目の一部)

昭和二年三月三十日諮問

同日修正決議の上答申

一一五 諮問第十五號 一部換地面積決定に関する件 (飯田町五丁目
目河岸地)

昭和二年五月十八日諮問

同日原案可決の上答申

一一六 諮問第十六號 一部換地位置竝面積變更に関する件 (飯田町三丁目
目の一部)

昭和三年一月三十一日諮問

同日否決の上答申

議事要綱

本案は飯田町三丁目二十二番地先より二十九番地先に至る六米街路の變更に関する件にして、委員
會に於ては曩に同町三丁目二十六番と二十四番との間を通ずる六米街路を二十五番地先に於て左右に
分岐せしめ、一は西方二十二番地先に至り他は二十五番、二十六番界を東方に地區界の崖地に沿ひ二

昭和二年五月十八日諮問
同日原案可決の上答申

一六 諮問第十六號 一部換地位置竝面積變更に關する件 (飯田町三丁目の一部)
昭和三年一月三十一日諮問

同日否決の上答申

議事要綱

本案は飯田町三丁目二十二番地先より二十九番地先に至る六米街路の變更に關する件にして、委員會に於ては曩に同町三丁目二十六番と二十四番との間を通ずる六米街路を二十五番地先に於て左右に分岐せしめ、一は西方二十二番地先に至り他は二十五番、二十六番界を東方に地區界の崖地に沿ひ二十九番地先に於て在來街路に合せしむるの計畫を決定したりしが、大正十五年二月日本マリア會社員團外隣接土地所有者二十數名より右計畫街路は日本マリア會社員團經營の曉星學校敷地を貫通し學校の經營上支障甚だしきを以て變更方に付陳情ありたるを以て調査の結果該街路は崖地に沿ふを以て直接隣接する宅地の利用不可能なるのみならず其の廢止により工事費並移轉補償金等約十萬圓を節約し得べきが爲、當局に於て之を變更するに決し西方二十二番地先に向ふ街路の幅員を四米に縮少すると共に崖地沿ひの街路を廢止し、之に伴ふ換地組替を提案するに至れり、然るに委員會に於ては「工事費其の他の節約關係は今日改めて云爲すべき問題に非ず、而も本件の如きは當局の原案に吾人の意見を加味せしめて滿場一致を以て決議したるものなり、斯くて移轉發令後の今日に至り一部陳情者の意見を容れ之を變更せむとするが如きは不可解なり、本變更案は不適當と認む」と主張し全員一致を以て之を否決したり、依て當局に於て更に慎重講究の結果、本案によるも宅地の利用上支障なきのみならず、巨額の工事費を節約し得るの見地より遂に原案を執行するに至れり。

一七 諮問第十七號 一部換地位置竝面積變更に關する件 (飯田町三丁目及同六丁目の各一部)

昭和三年四月五日諮問

委員會二回 協議會一回開催

第二地區 甲 整地

同月十三日原案可決の上答申

一八 諮問第十八號 一部換地位置竝面積變更に関する件

(飯田町三丁目及同五丁目の各一部)

昭和三年十一月十九日諮問

同日原案可決の上答申

一九 諮問十九號 一部換地位置竝面積變更に関する件

(飯田町二丁目及同三丁目、同四丁目、同六丁目及富士見町六丁目の各一部)

昭和四年五月九日諮問

同日原案可決の上答申

二〇 諮問第二十號 一部換地位置竝面積變更に関する件

(飯田町六丁目の一部)

昭和四年六月十八日諮問

同日原案可決の上答申

二一 諮問第二十一號 土地各筆清算に関する件

昭和四年六月十八日諮問

委員會二回開催

同月二十三日原案可決の上答申

二二 諮問第二十二號 換地處分に関する件

昭和四年六月二十二日諮問

同日原案可決の上答申

二三 諮問第二十三號 補償金の配當に関する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合を左の通定めむとす。

麴町區飯田町二丁目二十八番ノ四の借地權、同區飯田町四丁目九番ノ三、十二番ノ三、飯田町五丁目三番ノ二、十三番ノ二、三十三番、三十五番、飯田町六丁目九番、十二番ノ五、十三番ノ四、十三番ノ七の各所有權に對する配當割合は整理前指數相當額とす。

前項以外の土地に對する配當割合は、補償總指數より前項の配當額を控除したるものを、特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各種權利の整理前指數に按分したる率に依るものとす。

右昭和四年六月二十二日諮問

昭和四年六月二十二日諮問

同日原案可決の上答申

二三 諮問第二十三號 補償金の配當に関する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合を左の通定めむとす。

麴町區飯田町二丁目二十八番ノ四の借地權、同區飯田町四丁目九番ノ三、十二番ノ三、飯田町五丁目三番ノ二、十三番ノ二、三十三番、三十五番、飯田町六丁目九番、十二番ノ五、十三番ノ四、十三番ノ七の各所有權に對する配當割合は整理前指數相當額とす。

前項以外の土地に對する配當割合は、補償總指數より前項の配當額を控除したるものを、特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各種權利の整理前指數に按分したる率に依るものとす。

右昭和四年六月二十二日諮問

同日原案可決の上答申

二四 諮問第二十四號 換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申後土地又は土地に關する權利に變動ある場合の處分方の件

諮問第二十二號換地處分に關する諮問に對し、整理委員會の答申後換地處分告示の日迄に於て、土地の分合又は土地に關する權利の得喪、變更あるときは左記に據り換地説明書を變更せむとす。

記

一 土地分合の登記ありたるときは其の範圍を指定すると共に、整理前後の權利指數並清算金額を算出し、以て換地説明書中當該部分を變更す。

二 借地權設定の登記若は届出ありたる時、又は所有權及借地權の移轉並借地權に付轉貸の登記若は届出ありたる時は、當該權利の範圍を指定すると共に整理前後の權利指數及清算金額を算出し、換地説明書中當該部分を變更す。

三 處分の制限に關する登記ありたる時は、當該權利の換地に付制限を受くべき部分を適當に指定し、換地説明書に之を記載す。

右昭和四年六月二十二日諮問

同日原案可決の上答申

第二章 整理前土地の狀況

本地區の總面積は八萬七千四百九十七坪九合五勺にして、内宅地面積六萬七千二百六十二坪五合五勺、公共用地面積二萬二百三十五坪四合なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地七割六分九厘、公共用地二割三分一厘なり、宅地内借地面積は二萬五千九百三十六坪六合三勺にして、之が宅地面積に對する割合は三割八分六厘なり。

本地區の整理施行區域には當初富士見町五丁目、同六丁目、飯田町一丁目、同三丁目及同六丁目の各一部面積一萬四千七百六十一坪一合七勺を編入せざりしも、土地區劃整理委員會及地元住民より地區編入の希望あり、調査の結果之が編入施行を可とするを以て、特別都市計畫委員會の議決を経て同地域の追加編入を爲したり其の經過左の如し(第一章第節諮問及答申參照)

大正十三年七月十五日阿久津喜兵衛外三十二名より當局に對し本地區に接續する焼失地域富士見町五丁目、同六丁目、飯田町一丁目、同三丁目、同六丁目の各一部及焼失地にて隣接地たる飯田町二丁目の一部を本整理地區に編入し、以て街路の新設並擴張に因る減歩の緩和を圖られ度旨を陳情せり、次で同年八月二十八日熊切重吉外三十四名より、越えて大正十四年二月十一日麴町區飯田町代表安田久次郎外六十四名より各當局に對し前記請願と同一趣旨の陳情を爲せり、其の論旨に依れば本請願地域は大震災火

災當時現在の第二地區と同様の災害に罹り、且連續して全町を構成し其の間何等區分を爲すの必要なく、殊に富士見町焼失地の如きは本地區と最も密接なる關係を有するに拘らず整理除外地たるは遺憾なり、特に財團法人日本齒科醫學專門學校の如きは本地區焼失の唯一火元たる關係上、少くも附近同様の減歩負擔に任すべく、強ひて舊面積を維持する事情ありとせば清算金に依り負擔の衡平を得せしめて可なり、故に此の機會に於て同一に整理を敢行し、接續地間に舊狀を存するの醜態なからしむるの要あり、且現

大正十三年七月十五日阿久津喜兵衛外三十二名より當局に對し本地區に接續する燒失地域富士見町五丁目、同六丁目、飯田町一丁目、同三丁目、同六丁目の各一部及燒失地にて隣接地たる飯田町二丁目の一部を本整理地區に編入し、以て街路の新設並擴張に因る減歩の緩和を圖られ度旨を陳情せり、次で同年八月二十八日熊切重吉外三十四名より、越えて大正十四年二月十一日麴町區飯田町代表安田久次郎外六十四名より各當局に對し前記請願と同一趣旨の陳情を爲せり、其の論旨に依れば本請願地域は大震災

災當時現在の第二地區と同様の災害に罹り、且連續して全町を構成し其の間何等區分を爲すの必要なく、殊に富士見町燒失地の如きは本地區と最も密接なる關係を有するに拘らず整理除外地たるは遺憾なり、特に財團法人日本齒科醫學専門學校の如きは本地區燒失の唯一火元たる關係上、少くも附近同様の減歩負擔に任すべく、強ひて舊面積を維持する事情ありとせば清算金に依り負擔の衡平を得せしめて可なり、故に此の機會に於て同一に整理を敢行し、接續地間に舊狀を存するの醜態なからしむるの要あり、且現在の施行地域は地形狹長なるが爲整理に因り多大の減歩を生ずるは必然にして、之が緩和上より見るも地區追加編入は極めて適切なりとせり、然るに大正十四年三月二十八日附を以て現施行區域に對し、諮問第一號整理前土地面積決定期日に關する件及諮問第二號換地位置決定に關する件を土地區劃整理委員會に提案するや、當日委員より諮問案件の審議前先以て住民の熱望に係る地區追加編入の件及砂利置場新設中止に關する件の希望達成を期し須く當局に建議すべしとの意見出で、委員會は滿場一致を以て之を可決し、直ちに起草委員五名を設くると同時に右二件の解決迄一切の議事を中止する旨の決議を爲せり。

右建議案は大正十四年四月十一日開會の委員會に於て滿場一致之を可決すると共に直に運動を開始すべく、前記起草委員に議長、副議長外三名を加へ合計十名の實行委員を選定せり、而して該建議案には「飯田町一丁目、同三丁目、同六丁目及富士見町五丁目、同六丁目の燒失地域にして未だ區劃整理地區内に編入せられざる部分の全部を、第二地區整理地區内に編入するものとす、但し佛國大使館敷地を除く」とありて、其の理由に依れば前記燒失地を特別の理由なくして地區外に置くが如きは整理の公平を缺き、整理地區民に對し整理に因る地積提供の負擔を重からしめ、且地區外に置かれたる燒失地域との交通連絡を缺くに至ると謂ふにあり。

以上述べたる地區追加編入問題は、砂利置場新設中止問題と相俟つて紛糾を續け解決容易ならざるも

のありしが、當局は之に對する處置に付慎重に考慮し復興局と協議の結果、從來編入せざりし燒失區域富士見町五丁目の一部面積二千三百十坪九合六勺同六丁目の一部面積二千九百五十九坪四合一勺飯田町一丁目の一部面積二千三百十九坪二合七勺同三丁目の一部面積四千八百四十五坪三合三勺同六丁目の一部面積二千三百二十六坪二合合計面積一萬四千七百六十一坪一合七勺の土地を本地區に編入することとし、大正十四年五月三十日特別都市計畫委員會の議決を経、同年六月六日内務省告示第百四號を以て區劃整理施行區域中變更の件内閣の認可を得たる旨公示ありたるに依り、同月十三日東京市告示第百七十三號を以て第二地區の地域追加變更の告示を爲せり。

尙本地區には當初飯田河岸並之に接續する運河及道路を編入しありたるも、換地設計上の關係なく編入を要せざるに依り、其の面積九千四百三十一坪一合の土地を地區外に除外したり其の經過左の如し。

飯田河岸は地區の北部鐵道省用地を隔て、飯田橋南詰より神田川に沿ひ小石川橋南詰に至る間に在る狭長の土地にして、其の南側には飯田橋南詰より三崎橋西詰に至り南折して新三崎橋西詰に至る幅員十一米乃至二十八米の街路あり、最初之を本地區内に編入せしが、換地設計に際し飯田河岸は變更するの必要なく現狀維持となし、之が換地位置決定に關する件を大正十四年三月二十八日土地區劃整理委員會に附議したり、爾來審議を重ねしが大正十五年二月十八日同委員會より飯田町五丁目日本醫學專門學校脇より北上し省線ガード下を経飯田河岸通に至る十一米區劃整理街路を延長して飯田河岸を貫き神田川に架橋し陸軍造兵廠南部の電車通に通ずる區劃整理街路を新設せられ度旨の希望あり、其の理由に依れば該街路を新設するときは陸軍造兵廠の開放と相俟つて飯田町と小石川町とを連絡する重要街路となるべしと謂ふに在り、然るに調査の結果陸軍造兵廠の移轉の時機判明せず且其の移轉後に於ける跡地の街路計畫不明なるを以て架橋の位置を決定するを得ず、寧ろ飯田河岸面積二千七百七十二坪一合及之に接續する道路面積二千八百六十九坪並河川面積三千七百九十坪合計面積九千四百三十一坪一合の土地を

地區より除外するを適當と認め、昭和三年十月二十三日東京市告示第三百九十號を以て之を除外する旨告示せり。

一 主要街路

本地區に於ける街路及河川分布の狀況を述べれば左の如し。

九段坂下より須橋を経て地區外神保町方面に至る電車通は幅員十五間半乃至十六間半、九段坂下よ

川に架橋し陸軍造兵廠南部の電車通に通ずる區劃整理街路を新設せられ度旨の希望あり、其の理由に依れば該街路を新設するときは陸軍造兵廠の開放と相俟つて飯田町と小石川町とを連絡する重要街路となるべしと謂ふに在り、然るに調査の結果陸軍造兵廠の移轉の時機判明せず且其の移轉後に於ける跡地の街路計畫不明なるを以て架橋の位置を決定するを得ず、寧ろ飯田河岸面積二千七百七十二坪一合及之に接續する道路面積二千八百六十九坪並河川面積三千七百九十坪合計面積九千四百三十一坪一合の土地を

地區より除斥するを適當と認め、昭和三年十月二十三日東京市告示第三百九十號を以て之を除斥する旨告示せり。

本地區に於ける街路及河川分布の狀況を述べれば左の如し。

一 主要街路

九段坂下より俎橋を経て地區外神保町方面に至る電車通は幅員十五間半乃至十六間半、九段坂下より飯田橋に至る電車通は幅員十間九段坂下牛ヶ淵公園前の街路は幅員約十四間乃至二十一間にして何れも主要街路なり。

二 其の他の街路

飯田町三丁目より富士見町五丁目に至る街路は幅員約三間乃至三間半、富士見町六丁目より同五丁目を経て牛込見附に至る街路は幅員約四間半、飯田町四丁目より新川橋に至る街路は幅員四間半乃至五間半、飯田町五丁目電車通より飯田河岸に至る街路は六間、俎橋西詰より省線ガード下を経て新川橋西詰に至る街路は六間、飯田橋内省線ガード南側より除斥地鐵道用地に沿ひ新川橋西詰に至る街路は約三間乃至五間半とす、其の他の街路は幅員狭小にして交通不便なり。

三 河 川

外濠は地區の東端に在り幅員十五間、深度二尺二寸にして水運の便あり、河心を地區界とす。

第三章 計畫の概要

第一節 街路計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路左の如し。

第一 幹線街路

第二號線は九段坂下より俎橋に至る幅員四十四米の街路にして在來電車通の兩側に擴張したり、本街路には當初陸橋の架設計畫ありて幅員四十七米に議定せられしも、其の後經費其の他の關係に依り陸橋計畫廢止せられたるが爲幅員を四十四米に縮少せり、第十四號線は飯田橋北詰より東南へ斜走し、飯田町四丁目の稍中央より東折し新設堀留橋を經、第五地區に至る幅員二十七米の街路にして飯田町四丁目より堀留橋に至る間は新設、其の他は概ね在來電車通の東側に擴張せり。

第二 補助線街路

第二百二十四號線は九段坂上より富士見小學校前を經て牛込見附内に至る、幅員十一米の街路にして大部分を新設せり。

第三 區劃整理街路

區劃整理街路は幅員三米、四米、五米、六米、七米、八米、十一米、十三米及十八米にして土地の狀況に應じ且幹線、補助線の連絡に考慮を拂ひ新設、擴築又は改修を爲せり、在來電車通中飯田町四丁目より九段坂下に至る區間並牛ヶ淵公園前通は舊道を存置せり。

以上述べたる幹線、補助線及區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	摘	要
	二	四米	一四・五 _米	二、〇六五 _坪		

幹線	計	幅員	延長	面積	摘	要
	一四	二七	七二・八三	六、九七〇・二四		
補助線	二四	二	二八六・五五	一、〇四・八一		
		三〇	二〇四・八二	一、六六七・五三		舊道存置

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年三月二十八日、追加編入地域の換地位置決定に關する件は同年十一月十三日土地區劃整理委員會に附議し、何れも昭和二年三月三十日修正決議せしむ、其の後數回に亘り一部換地位置變更案を提出し、昭和四年六月十八日議了せり、換地面積決定に關する件は大正十五年二月十八日より昭和二年五月十八日に至る間數回に分ちて提案し、各其の決議を経たるも、其の後數回に亘り一部換地面積變更案を提出し、昭和四年六月十八日議了せり。

本地區換地設計に際し飯田町二丁目及同四丁目に面積約二千坪の砂利置場を新設する計畫なりしが、地元の反對甚だしく終に之が新設計畫を中止するに至れり其の經過左の如し。

震災前東京市内に於ける砂利使用量は頗る多額に上りしが之が取扱に付て何等見るべき施設なかりしを以て、復興局は復興事業遂行を機とし、工事材料中特に此の砂利供給に關して畫策するところあり、即ち同局は其の執行に係る工用砂利の需要増加を來すの結果、砂利供給の圓滑を缺き且其の價格の暴騰を招來すべきを考慮し、之が採取及配給の直營を企圖するに至りしものにして、該砂利集散所を市内三箇所に設け其の内一箇所は飯田町二丁目より同四丁目河岸に亘る土地に設置せむとせり、此の理由は玉川産の砂利が從來總消費高の七割乃至八割を占め、本市及近郊所在の二十二驛中砂利取扱高最も多きは飯田町驛にして他の取扱量の約半數に該當し、且同河岸は水陸運輸の便を有せるものなる等より集散場として最も適當と認めたるに因れり、而して當局は本地區換地設計に際し復興局の前記計畫に基き、飯田町二丁目より同四丁目に亘る外濠に沿ひ、面積約二千坪の材料置場を新設するの設計を樹てたり、然るに本計畫は其の換地位置決定に關する件を土地區劃整理委員會に提出するに先立ち地區民の知る所となり、大正十三年七月二十九日飯田町町民六百名總代工藤角三郎より之が撤廢に關する陳情書を當局

に提出せり、次で大正十四年二月二十一日飯田町全町代表委員阿久津喜兵衛外九名より砂利置場撤廢の陳情あり、之に依れば先に請願したる全町民一致の希望に係る砂利置場撤廢陳情に對し、當局は何等考慮を拂ふことなく當初の計畫を遂行するの意見なるが如きも、全町民は前陳情の趣旨を變更すべき事由なきを以て茲に再び陳情に及ぶものなりと謂へり、當局は是等陳情に對し當初より屢之が説示に努むる所ありしと雖其の諒解を得るに至らず、砂利置場撤廢運動は益々熾烈となれり。

大正十四年三月二十八日整理前土地面積決定期日に關する件及換地位置決定に關する件を土地區劃整

は飯田町驛にして他の取扱量の約半數に該當し、且同河岸は水陸運輸の便を有せるものなる等より集散場として最も適當と認めたるに因れり、而して當局は本地區換地設計に際し復興局の前記計畫に基き、飯田町二丁目より同四丁目に亘る外濠に沿ひ、面積約二千坪の材料置場を新設するの設計を樹てたり、然るに本計畫は其の換地位置決定に關する件を土地區劃整理委員會に提出するに先立ち地區民の知る所となり、大正十三年七月二十九日飯田町町民六百名總代工藤角三郎より之が撤廢に關する陳情書を當局

に提出せり、次で大正十四年二月二十一日飯田町全町代表委員阿久津喜兵衛外九名より砂利置場撤廢の陳情あり、之に依れば先に請願したる全町民一致の希望に係る砂利置場撤廢陳情に對し、當局は何等考慮を拂ふことなく當初の計畫を遂行するの意見なるが如きも、全町民は前陳情の趣旨を變更すべき事由なきを以て茲に再び陳情に及ぶものなりと謂へり、當局は是等陳情に對し當初より屢之が説示に努むる所ありしと雖其の諒解を得るに至らず、砂利置場撤廢運動は益々熾烈となれり。

大正十四年三月二十八日整理前土地面積決定期日に關する件及換地位置決定に關する件を土地區劃整理委員會に提出せしに、同委員會は之が審議を避け、地區追加編入並砂利置場撤廢兩問題に就き建議を爲すこととし、更に同年四月十一日の委員會に於て起草委員、正副議長其の他合計十名の實行委員を選びて其の目的を貫徹するに決せり、該建議は飯田町二丁目及同四丁目地内に砂利置場を設置せむとする計畫は之を廢止せられたしと謂ふに在りて、其の理由に依れば現時市外より搬入する砂利運搬の狀況を見るに東海、東北及中央の三鐵道線路に據るものにして、其の取扱驛附近中價格低廉なる場所あるべし、然るに地價の不廉と狹隘に惱む本地區の樞要部分に之を設けむとするは、徒らに商業の萎靡を招き且町民衛生を害ふと云ふにあり、然るに復興局に於ても偶豫算の關係上、砂利置場設置を中止するの已むなきに至りしを以て當局と協議の結果、設計を變更し砂利置場を設置せざることに決し、茲に本問題の解決を見たり。

換地設計に依る宅地面積五萬七千四百六十六坪四合二勺、公共用地面積三萬三十一坪五合三勺にして宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割五分七厘、公共用地三割四分三厘なり、宅地の内借地面積は二萬三千三百三十三坪四合三勺にして、其の宅地面積に對する割合は四割六厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積一萬九千九百四十四坪七合三勺、公共用地が宅地となりたる面積二千百四十八坪六合、其の差引潰地面積九千七百九十六坪一合三勺、減歩率一割四分六厘なり。

